

〔 著者一覧 〕

〔 代表 〕
一松 信
岡田 禎雄

京都大学名誉教授
広島大学名誉教授

〔 監修 〕
赤井 利行
池田 敏和
黒澤 俊二
田中 博史
正木 孝昌
柳瀬 泰

兵庫大学教授
横浜国立大学教授
元立教大学教授
「授業・人」塾代表・元筑波大学附属小学校副校長
元國學院大學栃木短期大学教授
玉川大学教授

〔 編集 〕
青山 尚司
石浜 健吾
今崎 浩
植田 敦三
植村 哲郎
越後 佳宏
及川 久遠
大澤 弘典
大和田智義
尾崎 伸宏
尾崎 正彦
小野健太郎
風間 寛司
川寄 道広
河崎 美保
神戸 佳子
木下 幸夫
木村 知子
日下 智志
久保田健祐
蔵満 逸司
河内麻衣子
上月 千尋
後藤 学
後藤 道洋
小林 秀訓
齋藤 昭
坂本 正彦
佐藤 純一

筑波大学附属小学校教諭
昭和学院小学校教諭
広島文教大学教授
広島大学名誉教授
鹿児島大学名誉教授
東京学芸大学附属世田谷小学校副校長
大和大学教授
山形大学大学院教授
静岡大学教授
成蹊小学校教諭
関西大学初等部教諭
武蔵野大学准教授
福井大学准教授
大分大学教授
静岡大学准教授
東海大学教授
関西学院初等部教諭
世田谷区立多聞小学校教諭
鳴門教育大学講師
西宮市立鳴尾東小学校教諭
琉球大学教職大学院准教授
豊島区立高南小学校教諭
日野市立日野第四小学校教諭
白鷗大学准教授
東京学芸大学附属大泉小学校教諭
広島大学附属東雲小学校教諭
柴田学園大学大学院非常勤講師
元常葉大学大学院准教授
国立学園小学校校長

清水 久嗣
正田 良
杉原 真晃
鈴木 純
高澤 茂樹
竹尾智登志
田中 英海
中田 寿幸
長島 寛和
永田美奈子
長間 清人
夏坂 哲志
西谷 泉
布川 和彦
野村 俊一
樋口万太郎
平川 賢
前田 健太
益川 弘如
町田彰一郎
松井 恵子
松岡 克典
松岡 泰成
松沢 要一
松村 聡
松村 隆年
丸山健太郎
宮城 和彦
村田 亜季
森本 隆史
守屋 義彦
山本 順一
山本 良和
和田 信哉
渡邊 慶子

慶應義塾幼稚舎教諭
成蹊大学非常勤講師
聖心女子大学教授
学習院初等科教諭
滋賀大学教授
南山大学附属小学校教諭
筑波大学附属小学校教諭
筑波大学附属小学校教諭
国分寺市立第三小学校教諭
雙葉小学校教諭
沖縄市立比屋根小学校校長
筑波大学附属小学校副校長
群馬大学名誉教授
上越教育大学教授
早稲田大学准教授
香里ヌヴェール学院小学校教諭
昭和学院小学校教諭
慶應義塾横浜初等部
聖心女子大学教授
埼玉大学名誉教授
播磨町立蓮池小学校教頭
奈良学園大学准教授
那覇市立松島小学校校長
上越教育大学名誉教授
藤女子大学教授
常葉大学特任准教授
横浜国立大学附属鎌倉小学校
日本女子大学附属豊明小学校教諭
カリフォルニア州立大学パークレー校教授
筑波大学附属小学校教諭
元国立学院小学校校長
大井町立大井小学校教諭
昭和学院小学校校長
鹿児島大学准教授
滋賀大学准教授

〔 全体校閲 〕
榎本 勝人

元鹿児島市立原良小学校校長

〔 特別支援・カラーユニバーサルに関する校閲 〕
田中 良広

帝京平成大学教授

みんなと学ぶ

小 学 校

算 数

編集の趣旨と特色

令和 6 年度用

小学校算数教科書
内容解説資料





「みんなと学ぶ」にこめた思い

OUR POLICY

学校図書の教科書には、教科名の前に、「みんなと学ぶ」という言葉がついています。

これには、教室という空間、授業という時間を共有し、

先生や友だちとの学びを大切にしたいという思いをこめています。

「個」があつての「みんなの学び」, 「みんな」があつての「個の学び」。

個とみんなの両方の学びが深まることを大切にし、教科書編修の基本理念としてきました。

個の違いが
協働を生み、
協働の学びが
個を深める。

特色 1

学びたくなる

特色 2

使いたくなる

特色 3

深めたくなる

CONTENTS

教科書の構成	2	学年のPOINT	20
特色 1 学びたくなる教科書	4	GAKUTO のPOINT	26
特色 2 使いたくなる教科書	8	観点別特色一覧表	36
特色 3 深めたくなる教科書	12	教師用指導書、デジタル教科書・教材の紹介	44
年間指導計画案	18	表紙について	45



田中博史

「授業・人」塾代表
元筑波大学附属小学校副校長

学校図書の教科書のテーマは「みんなと学ぶ」です。ICT環境の発達により、その気になれば一人での学びも可能になりましたが、今、あえて「みんなと学ぶ」ことにどのような価値があるのかを改めて考えてみる必要がある時代だと考えます。

これまでも友だちと交流することで多様な考え方に触れることができるというよさは認識されてきました。しかし「みんなと学ぶ」ことのよさはそれだけではありません。

子どもたちがいずれ旅立つ社会においては、様々な人の中で生きていくことが求められます。そんな中で、例えば自分の提案を試みたとき、用意した説明だけではなかなか相手が納得してくれないという場面にもたくさん出会います。そんなとき相手がわかってくれないとただ嘆きだけでは自己実現は目指せません。

このような時こそ、「相手のわかり方や経験」にあわせて説明を変えていく力が求められます。実は、子どもたちの日々の算数の授業中における友だちとの交流では、先ほどのような場面で生きる方法がたくさん登場してきます。例えば友だちのよく知っている別の生活場面に置き換えること、具体物を用いて操作しながら説明すること、図に書き込みながら説明すること、使う数を簡単にして伝えることなどがそれです。これらは従来から大切にされてきたはずですが、子どもたちの中に、本当に相手に「伝えたい」、さらには「伝わったかどうかを知りたい」という想いがないと期待する効果にはなかなか繋がらなかったのです。

こうして考えてみると「みんなと学ぶ」の中の「と」という一文字には実はとても大切な意味があるのです。



池田敏和

横浜国立大学教授

「文明」だけが進歩しても、人間の営みが「文化」として深まっていかなければ意味がありません。ここでいう文明とは、科学的・技術的な進展を意味しており、文化とは、文明の進歩を通して、人間の心が豊かになっていくことを意味しています。算数の学習においてもしかりです。ICTを通して、子どもたちが個別に学んでいくだけでは、算数の学習を通して心が豊かになっていきません。子どもたちがお互いを理解し、励まし合って算数を学んでいくことに価値があります。「個」があつての「みんなの学び」, 「みんな」があつての「個の学び」です。一人ひとりの個性的な考えが、みんなにとっての算数の学びを深め、クラスみんなが「〇〇さんらしいな」と各々の個性を認め合えることに繋がってほしいわけです。また、みんなで学ぶことを通して、その対話が一人で考えるためのモデルになり、一人ひとりが自立して考えていくことにつながっていきます。自分一人で考えるとき、そこには、「〇〇さんならこういうかな」「先生だったらこういうかも」といった形で、自分の中に多様な人の考えがあらわれてきます。自分の思考の中で、友だちや先生の言葉は生き続けているのです。みんなと学ぶことを通して獲得した多様な見方があり、そのお陰で、今の自分があるのだという感謝の心に繋がっていくわけです。自分の成長を感じるとき、それは、人への感謝をかみしめるときでもあるわけです。学べば学ぶほど、互いに強く結ばれる教育、これが学図の目指しているところです。

教科書の構成

「みんなと学ぶ 小学校算数」は、すべての子どもが自ら学び、さらにみんなと学ぶことができるように、「巻頭ページ」、「本単元」、「特設ページ・巻末ページ」の3つの部分で構成しています。

STEP 1

巻頭ページ

巻頭ページでは、「算数の学び方」で学習の進め方を学び、「ノート名人になろう」でノートの基本的な書き方を知り、「算数で見つけない！ 考え方モンスター」や「〇年生で見つけない見方・考え方」でこれまでの学びをふりかえりながら、これからの学びに活かせるようにしています。

みんなと学ぶ
算数の学び方

ノート名人になろう

算数で見つけない！
考え方モンスター

〇年生で見つけない
見方・考え方

p.8

STEP 2

本単元

本単元では、自分たちの疑問をもとに課題解決に向かいながら基礎・基本を身につけるとともに、学びを深めていけるような構成にすることで、算数の力を確かなものにすることができるようになっています。

？を発見

導入

めあて

まとめ

つながりの？

p.4

p.4

できるようになったこと

まなびをいかそう

考え方モンスターで
ふりかえろう！

？をかいけつ！

つながりたいな

算数パトロール隊

p.10

p.7

p.13

STEP 3

特設ページ・巻末ページ

必要に応じて特設ページを扱うことで、算数の世界を広げ、身のまわりに活用できることを感得することができるようにしています。また、巻末の「もっと算数」では、「はじめの問題」や「ふかめよう」に取り組み、一人ひとりの学力をより確かなものにすることができるようになっています。

図や表を使って
問題を考えよう

ふりかえろう
つながよう

算数をつかって

プログラミングのプ

もっと算数

p.7

p.16

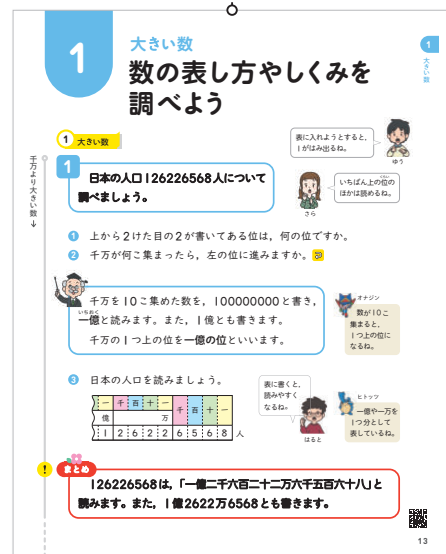
p.30



4 年上 p.9



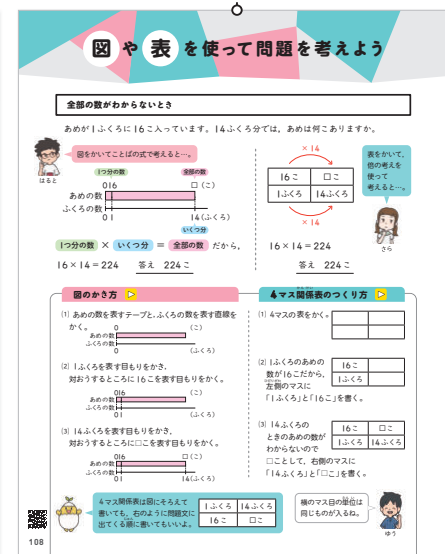
4 年上 p.12



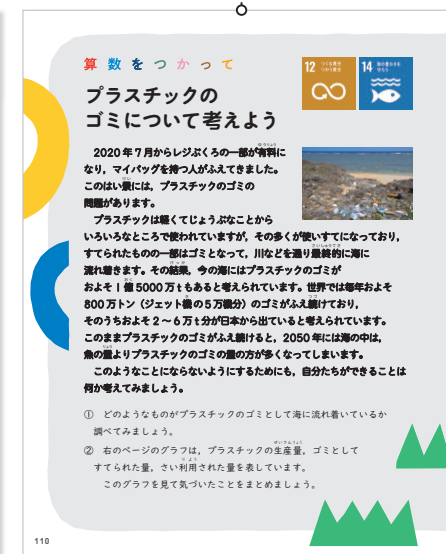
4 年上 p.13



4 年上 p.24



4 年上 p.108



4 年上 p.110

学びたくなる教科書

～主体的・対話的で深い学びの実現～

POINT

子ども主体の
授業

を実現します。

どうすれば
できるのかな？

みんなで
考えてみたい！

もっと
知りたい！

子どもたちの
その声に
応えます。



1 疑問に出会い、算数を学びたくなる（主体的な学び）

身近な疑問を見つける！「？を発見」

算数の学びは、身近なことや算数の中から、子どもたちが問題を発見するところから始まります。

自分たちで発見した問題を解決したいと興味・関心をもつことで、自然に主体的な学びになり、算数を楽

しく学ぶことができます。

新しい学習に入る場面では「？を発見」のページを設定することで、算数がより身近に感じられ、主体的な学びが自然に実現できるようにしています。



3 年下 p.86

導入を、イラスト形式の読み物にすることで、子どもたちがより身近な話題として学習に入っていけるようにしています。



5 年上 p.145

問題に取り組む！「導入問題」～「つながりの？」

15 分数 分けた大きさの表し方や しくみを調べよう

1 分数

1 黒板のたての長さをテープにとって、1mものさしではかると、1mとはしたが出ました。はしたの長さを何mといえよか考えましょう。



はと
10等分した目もりではかれば、
小数で表せるけど…

あかり
3等分した1つ分の
大きさは、
分数で表せたよ。

めあて はしたの長さを分数で表すことはできるのかな。

1 1mのテープを2等分、
3等分、4等分した
1こ分の長さ
はしたの長さを

はと
めあて どこを見れば、
分数の大きさが
くらべられるかな。

3 年下 p.87

3 年下 p.92

1mを3等分した1こ分の長さを $\frac{1}{3}$ mと書き、
三分の一メートルと読みます。

2 はしたの長さは、
何こ分で1mに
なりますか。

はと
3こ分で1mになるはしたの長さは、1mを3等分した
1こ分の長さと同じです。はしたの長さは、 $\frac{1}{3}$ mです。

3 年下 p.88

まとも 分子が1の分数が
いくつあるかを考えれば、
大きさをくらべられるね。

3 年下 p.92

さら

？ 分数のたし算やひき算もできるのかな？

3 年下 p.95

導入問題

「？を発見」で見つけた疑問を、そのまま導入の問題とすることで、自然な流れで主体的に学習に入っていくことができるようにしています。

小タイトル

1単位時間の初めに、この時間にどんなことを学ぶか見通しがもてるように、左側のラインの横に、小タイトルを示しています。また、左側のラインで1単位時間の目安がわかるようになっています。

めあて・～したいな

主体的な学びが進められるようにするためには、子どもの疑問がそのまま「めあて」となることが大切であると考えます。

そのため、問題を読んだり、考えたりする場面で、子どもたちの話し合いを通して「めあて」を見つけられるようにしています。

また、「めあて」はつねに授業の最初の段階に出てくるとは限らないため、自然な流れの中で出てくるように配置しています。

さらに、めあてが出るタイミングで、「考えたいな」、「調べたいな」など、子どもの気持ちに寄り添う「たい」を入れています。

まとめ

めあてに対応した「まとめ」を、子どもにわかりやすい言葉で示しています。

つながりの？

子どもが興味・関心をもったまま次の学習へ進んでいけるように、次の学習へつながる疑問を「つながりの？」として吹き出しで示しています。

2 みんなと学びたくなる（対話的な学び）

みんなと解決！「対話で学ぶ」

友だちと話し合うことで、新たな発見をしたり、自らの学びをふりかえったりすることができます。このような対話的な学びが実現できるように、本文のさま

ざまなところに対話の場面を見せて、実際の授業でも話し合いながら学んでいく姿勢を育むことができますようにしています。

③ 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 の数字カードを
1まいずつ使って、4けたの数のたし算やひき算の問題を作り、
計算しましょう。

さあさんの問題

$$\begin{array}{r} 6145 \\ + 7328 \\ \hline \end{array}$$

ゆうさんの問題

$$\begin{array}{r} 4812 \\ - 3576 \\ \hline \end{array}$$

① 答えがいちばん大きくなるたし算の問題を作りましょう。

答えがいちばん大きくなるのは、
どんなときかな。

千の位の数が
いちばん大きいときが
大きいよ。

3年下 p.33

となりの友だちや班の友だちとの話し合いを促すことで、自分の意見を伝えたり、友だちの意見を聞いたりする力を育むことができますようにしています。

① 2, 3 で しらべたことを つかって、おとしものを
へらすには、どんなことに 気をつければ よいか
話し合ってみましょう。

おとしものは、
又ぼうぐが多いね。

教室でのおとしものに
気をつけたいね。

自分のものには、
名前を 書くとい
いよ。

おとしものを
へらすくふうが
したいね。

もほど 算数 おとしものを へらす くふう

2年上 p.17

3 もっと学びたくなる（深い学び）

さらなる学びへ！「？をかいけつ！」「つなげたいな」

それぞれの単元は、基本的に「？を発見」から始まります。そこから学習を進めていくことで、知識を獲得しながらさまざまな疑問

を解決できるようになります。しかし、それらの疑問を解決したときに、「こんな場合はどうなるのかな」、「条件を変えたらどうなるのかな」、「もっと学びを進められるかな」と、学びを深める疑問が新たに生まれます。そのような新たな疑問を促すために、「つなげたいな」として、さらに子どもたちが学びを深めていくことができるようにしています。

同じ広さ？

みんなて、20このブロックでまわりをかこんで、
いろいろな花だんを作りました。

おとしものは、
又ぼうぐが多いね。

教室でのおとしものに
気をつけたいね。

自分のものには、
名前を 書くとい
いよ。

おとしものを
へらすくふうが
したいね。

もほど 算数 おとしものを へらす くふう

4年下 p.54

？をかいけつ！
1つ分の大きさを決めると、
面積を求めたり、くらべたり
することができました。

つなげたいな
正方形や長方形だけでなく、
三角形や平行四辺形の面積も
求めることができるのかな？

ゆう

あかり

4年下 p.72

多様な思考に触れる！「いろいろな考え方」

いろいろな視点での考え方を知ることは、学びの広がりにつながっていきます。教科書の本文でも、複数の考え方が出てくるような課題ではそれらの考え方を

示すことで、実際の授業でも多様な考え方を示すことを実感し、学びに広がりをもてるようにしています。

② 7×6の答えの見つけ方を、次のように、かけ算の表や図を使って考えました。どんな考えか、せつめいしましょう。

あかりさんの考え
7×6の答えは、
□×□の答えと
同じになります。

ゆうさんの考え
7×6の答えは、7×5の答えに
□をたすと、もとめられます。

さあさんの考え
7×6の答えは、7×7の答えから
□をひくと、もとめられます。

3年上 p.14

図や表、式などをもとにして、いろいろな考え方を示しています。また、それらの考え方を比較することで、理解を深めることができるようにしています。

② 計算のしかたを考えましょう。

はると
 $\frac{4}{5}$ m²を□に表すと、
どうなるかな。

はるとさんの考え
1m²は、
 $\frac{4}{5}$ m²は、
 $\frac{4}{5}$ m²の4倍だから、
 $\frac{12}{5}$ m²。

さあさんの考え
 $\frac{1}{5}$ を1つ分とすると、
 $\frac{4}{5}$ は、
 $\frac{4}{5}$ の4倍だから、
 $\frac{12}{5}$ m²。

ヒント
2人の考えを比べるときは、
・2人はどんな考えか
・ちがうところはどこか
・同じところはどこか
などを調べたいね。

はるとさんとさあさんの計算のしかたを
比べてみましょう。

6年 p.46

発展させる！統合する！「ふりかえろう つなげよう」

「ふりかえろう つなげよう」では、これまで学習してきた内容を、板書をイメージしたページを見ながら発展的・統合的に捉え直すことで、新たな発見や深い

理解が得られ、さらには次の学びへの興味・関心をもつことができるようにしています。

ふりかえろう つなげよう

問題 図形の面積の公式を見なおそう。

平行四辺形の面積は、
底辺×高さ
 $6 \times 4 = 24$ 24cm²

高さの $\frac{1}{2}$ のところで、
長方形にして考えると、
 $4 \times 6 = 24$ 24cm²

三角形の面積は、
底辺×高さ÷2
 $6 \times 4 \div 2 = 12$ 12cm²

高さの $\frac{1}{2}$ のところで、
長方形にして考えると、
 $4 \times 6 \div 2 = 12$ 12cm²

台形の面積の公式は、
（上底+下底）×高さ÷2
 $(2+6) \times 4 \div 2 = 16$ 16cm²

高さの $\frac{1}{2}$ のところで、
長方形にして考えると、
 $4 \times 4 = 16$ 16cm²

まとめ
① 平行四辺形、三角形、台形の面積は、
高さ×底辺（中央線）×高さ÷2で求められる。
② どんな形でも同じような長方形になる。

つなげたいな
ひし形やほかの
図形でも、同じように
考えられるのかな。

5年下 p.70-71

例えば、平行四辺形、三角形、台形の面積の求め方を学んだあとには、それぞれの求め方を発展的・統合的に捉え直し、どの形も（中央線）×（高さ）で求められることを見いだすことができますようにしています。

使いたくなる教科書

折り込み形式だから使いやすい！

～見方・考え方の獲得～

POINT

使える知識

を育みます。

この問題は、
こんな見方もできる！

この考え方モンster
が使える！

身につけた知識を
使いたく
なります。

見つけて使おう！「考え方モンster」

学びを進めていく際、いろいろな「見方・考え方」を使いながら問題を解決していきます。それらの「見方・考え方」の中で、特に算数の学びに重要だと考えられる9つの「見方・考え方」を、9体の「考え方モンster」

ンster」として表しています。「見方・考え方」をキャラクター化することで、身につけやすく、さらに使いやすくなり、子どもたちが楽しみながら算数を学んでいけるようにしています。

1つの問題に対して使える「見方・考え方」が1つとは限らないことや、提示した9つの考え方モンster以外にもいろいろな「見方・考え方」があることを示すことで、積極的に考え方モンsterを見つける姿勢を養うようにしています。



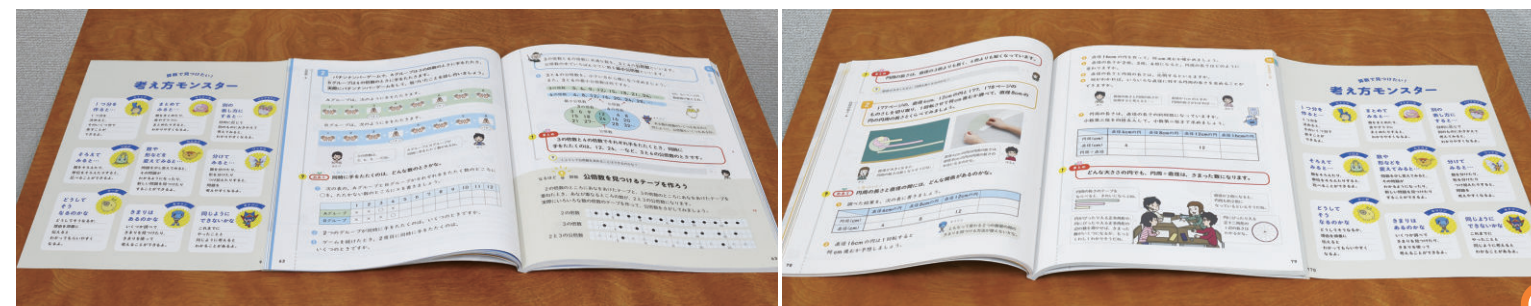
3年上 p.8-9

「考え方モンster」を一覧できるようにすることで、場面に応じた「見方・考え方」を見つけられるようにしています。

つながる！「学びの地図」

2年生以上の上巻では、「○年生で見つけた見方・考え方」を設定し、前学年で学んだ学習を領域ごとにふりかえることができるようにするとともに、どんなところで考え方モンsterを見つけたかがひと目で分かるようにしています。

また、2年上から6年別冊までの「○年生で見つけた見方・考え方」をつなげると、小学校算数の「学びの地図」がつながり、その連続性に気づくことができます。



開いている状態（上巻）

開いている状態（下巻）

教科書を開きながら、つねに「考え方モンster」を見ることができるように、折込形式にしています。



3年上 p.10-11

CHECK!
学びの地図を
つなげて
みると



本文中では、「見方・考え方」を使う典型的な場面で、側注として「考え方monster」を具体例とともに提示しています。また、側注だけでなく、「考え方monster」を使ったまとめとして、「考え方monster」でふりかえろう！」でも例示をしています。このよう

にいろいろな場面で子どもたちの目に触れるように提示していくことで、学びの中で自然に「考え方monster」を発見し、考えたりまとめたりする場面で使うことができるようにしています。

下巻の巻末でも、「考え方monster」の一覧を提示するとともに、単元末の「考え方monsterでふりかえろう！」でふりかえってきた「考え方monster」ごとにまとめることで、学年全体の学習と、これまでに見つけてきた「見方・考え方」を総括できるように

しています。
また、上巻では領域ごと、下巻では「考え方monster」ごとにまとめることで、学習内容と「見方・考え方」の両面で算数の学びを展望できるようにしています。

2 どちらが どれだけ ながいですか。

ヒトツツ
1つぶんを きめると、ながさが くらべられるね。

1 年下 p.34

23 × 3 の筆算のしかた

たてに位をそろえて書く。
「三三が九」一の位は9。
「三二が六」十の位は6。

ワッフル
位ごとに分けて計算しているね。

3 年下 p.10

2 ひっ算で しましょう。

ベツアラワン
数をブロックにおきかえて考えるとわかりやすいね。

くらいを そろえて 書けば、計算は これまでと同じだね。

はと

2 年上 p.41

1 かけられる数とかける数や、かけられる数と積について、いろいろなきまりを見つけましょう。

キマリン
どんなきまりがあるか 見つけられるかな。

① $40 \times 6 = 240$
 $80 \times 3 = 240$

② $80 \times 3 = 240$
 $40 \times 6 = 240$

③ $40 \times 6 = 240$
 $80 \times 6 = 480$

④ $80 \times 6 = 480$
 $40 \times 6 = 240$

4 年下 p.28

5 年生で見つけた見方・考え方

1つ分を作ると...
まとめてみると...
別の表し方にと...
数や形を変えてみると...
分けてみると...
そろえてみると...
きまりはあるかな...
同じようにできないかな...
どうしてそうなるかな...

5 年下 p.170

5 年下 p.171-172

学びを見直そう！「考え方monster」でふりかえろう！

単元末の「考え方monsterでふりかえろう！」では、その単元で見つけた典型的な「考え方monster」をどこで見つけたかふりかえることで、単元の学習全体もふりかえることができるようにしています。

「4 単位量あたりの大きさ①」では、どんな考え方monsterを見つけたかな。

こみくあいを比べるとき、「ソロエ」を見つけたよ。

はと

単位量あたりの大きさを考えるとき...

さ

5 年上 p.86

考え方monsterで ふりかえろう！

「4 単位量あたりの大きさ①」では、どんな「考え方monster」を使って考えてきたか、ふりかえてみましょう。

ソロエ
人数やシートのまい数をそろえと、こみくあいを比べることができました。

① 次の②、③、④のうち、いちばんこんでいるのがどれか比べるために、どのように考えましたか。

② 単位量あたりの大きさは、どんなことを表した数でしたか。

5 年上 p.88

さらに、6年別冊では、6年間の算数の学習を「考え方monster」ごとにまとめることで、これまでどんな「見方・考え方」を使って算数を学んできたか、ふりかえることができるようにしました。

6 年別冊 p.14-15

3 右の立体の体積の求め方を考えよう。

① さらさんとゆうさんは次のように考えました。

② さらさんの考え

③ ゆうさんの考え

④ 右の立体の体積を求めるとき、前に学習した図形の面積や体積の求め方を上手に「分ける」考えを使って求めることができました。

6 年別冊 p.14-15

特色 2
使いたくなる教科書「見方・考え方」の獲得！

3 算数と社会の関わりを深めたい

算数は使える！「算数をつかって」

算数の学びの中で身につけた力は、算数の授業の中で使えるだけでなく、社会へと広がっていく力になります。算数を使ってさまざまな問題に取り組む課題を扱うことで、学びに向かう力を育み、子どもたちの人間性をより豊かなものにすることができるようになっています。

SDGs マーク

各課題では、SDGsのどの目標について考えていくかわかるように、マークを示して、さまざまな目標に対して問題意識をもちながら学びを進めていけるようにしています。



算数をつかって

「せっ水」について考えよう

わたしたちは顔を洗ったり、ごはんをつくらうとき、水を使っています。それでは、1日にどのくらいの水を使っているかわかりますか。

1人が1日に使う水の量は、だいたい286Lくらいです。水はわたしたちの生活に欠かせない大切な資源ですが、ちよくせつ水のことでも、ほんの少しです。だから、水を大切に使うことが大切です。水を無駄にしないようにすることを「せっ水」といいます。自分たちのできるせっ水を考えよう。

286Lの水の量を、どのくらいかきとるのか、お風呂の水量と比べてみましょう。

① つぎのような水の量を、どのくらいかきとるのか、下の□の中に入れてみましょう。

② 1分間、水を出したままにしておくと、どのくらいかきとるのか、お風呂の水量と比べてみましょう。

③ コップに水をくんで、どのくらいかきとるのか、お風呂の水量と比べてみましょう。

④ 12L ⑤ 12dL ⑥ 12mL

1分間、水を出したままにしておくと、どのくらいかきとるのか、お風呂の水量と比べてみましょう。

今の自分を知らう！

① どんな場所で、どのくらいの水を使っているか、お風呂の水量と比べてみましょう。

② 水を節約するために、どんなことをしているか、お風呂の水量と比べてみましょう。

③ せっ水をするために、どんなことをしているか、お風呂の水量と比べてみましょう。

④ よくがんばった自分を、ほめることばをプレゼントしてあげよう。

2年下 p.58-59

今の自分を知らう！

各課題において、パフォーマンス評価の形で自己評価ができるように設定しています。

「算数をつかって」一覧

学年	学期	ページ	内容	SDGs
1	1	上 p.70-71	たしざんやひきざんのおはなしをつくろう	4・5
	2	下 p.40-41	なにをもっていけばよいかがえよう	11・13
	3	下 p.82-84	たべものをむだにしないようにしよう	2・12
2	1	上 p.120-121	夏を元気にのりきろう！	3・4
	2	下 p.58-59	「せっ水」について考えよう	6・14
	3	下 p.116-118	日本でむかしからつかわれているものをしらべてみよう	9・12
3	1	上 p.100-101	交通事故に気をつけよう	3・11
	2	下 p.70-71	生き物について考えよう	14・15
	3	下 p.146-148	正しく分べつしてゴミをへらそう！	12・13
4	1	上 p.110-111	プラスチックのゴミについて考えよう	12・14
	2	下 p.76-77	日本の森林について考えよう	11・15
	3	下 p.156-158	バスのバリアフリーを考えよう	10・16
5	1	上 p.130-131	食べ物から環境を考えよう	2・12
	2	下 p.88-89	外来生物について考えよう	14・15
	3	下 p.152-154	タイヤの材料について考えよう	7・11
6	1	p.104-105	デジタル・シティズンシップを身につけよう	9・16
	2	p.210-211	バランスのよい食事を考えよう	2・3
	3	p.228-230	ハザードマップを見てみよう	11

PICK UP ここに注目！

「算数をつかって」は、ただ単に課題を解決するだけではなく、さまざまな教育課題にも対応したページとなっています。6年間を通じて、課題に取り組みながら、算数の力を伸ばすとともに、子どもたちの社会に対する意識にも働きかけることができます。

算数をつかって

デジタル・シティズンシップを身につけよう

インターネットは、いろいろな情報を簡単に手に入れたり、人と人とつながりやすくなったり、わたしたちの生活をよりよくするために使われています。でも、インターネットを使うときには、いろいろなルールやマナーを守ることが大切です。自分たちの生活に役立つデジタル・シティズンシップを身につけよう。

① インターネットを使うときには、どのようなルールやマナーを守ることが大切か、お風呂の水量と比べてみましょう。

② インターネットを使うときには、どのようなルールやマナーを守ることが大切か、お風呂の水量と比べてみましょう。

③ インターネットを使うときには、どのようなルールやマナーを守ることが大切か、お風呂の水量と比べてみましょう。

6年 p.104-105

算数をつかって

ハザードマップを見てみよう

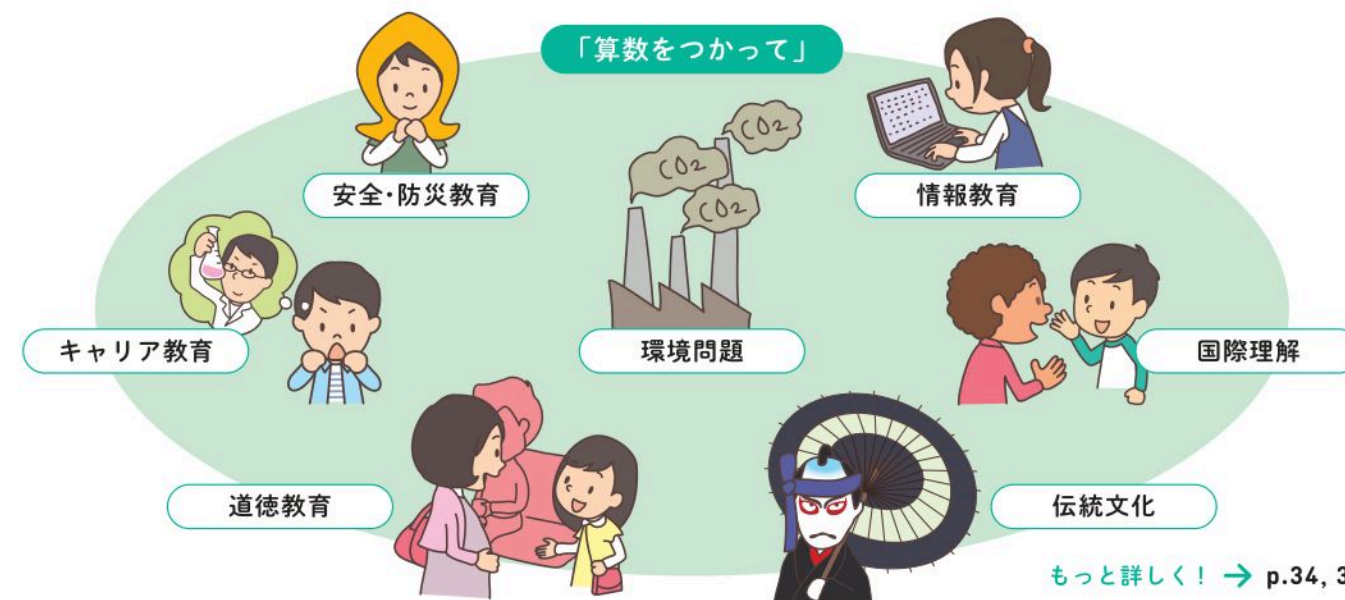
ハザードマップとは、自然災害による被害の恐れがある地域や、過去の災害で被害を受けた地域を示す地図です。ハザードマップを使って、自分たちの生活に役立つ情報を得よう。

① ハザードマップとは、どのような地図か、お風呂の水量と比べてみましょう。

② ハザードマップを使って、自分たちの生活に役立つ情報を得よう、お風呂の水量と比べてみましょう。

③ ハザードマップを使って、自分たちの生活に役立つ情報を得よう、お風呂の水量と比べてみましょう。

6年 p.228-229



もっと詳しく！ → p.34, 35

年間指導計画案

1 年

	単元	配当 時間
1学期 ↓ 40 : ↓ 50 2学期 ↓ 45 後期 ↓ 64 3学期 ↓ 29	入門期	2
	1 10までのかず	7
	2 いくつといくつ	4
	3 なんばんめかな	2
	4 あわせていくつ ふえるといくつ	12
	5 のこりはいくつ ちがいはいくつ	12
	さんすうをつかって	1
	6 いくつあるかな	1
	7 10よりおおきいかずを かぞえよう	7
	8 なんじなんじはん	2
	9 かたちあそび	5
	10 たしなりひいたり してみよう	3
	11 たしざん	9
	12 ひきざん	10
	13 くらべてみよう	7
	さんすうをつかって	1
	14 かたちをつくろう	4
	15 大きいかずをかぞえよう	11
	16 なんじなんぶん	2
	17 たすのかなひくのかな ずにかいてかんがえよう	5
	ふりかえろう つなげよう	1
	18 かずしらべ	1
	19 1年のまとめをしよう	3
	プログラミングのプ	1
	さんすうをつかって	1

合計114 時間

予備時数22 時間

2 年

	単元	配当 時間
1学期 ↓ 55 前期 ↓ 72 2学期 ↓ 56 後期 ↓ 67 3学期 ↓ 28	1 ひょうとグラフ	4
	2 時こくと時間 (1)	3
	3 2けたの たし算とひき算	2
	4 たし算のひっ算	7
	5 ひき算のひっ算	6
	6 長さ (1)	8
	7 たし算とひき算 (1)	5
	8 1000までの数	7
	9 大きい数の たし算とひき算	11
	ふりかえろう つなげよう	1
	算数をつかって	1
	10 水のかさ	7
	11 三角形と四角形	10
	12 かけ算 (1)	16
	13 かけ算 (2)	11
	14 かけ算 (3)	6
	15 分数	5
	算数をつかって	1
	16 時こくと時間 (2)	2
	17 10000までの数	6
	ふりかえろう つなげよう	1
	18 長さ (2)	4
	ふりかえろう つなげよう	1
	19 たし算とひき算 (2)	3
	20 しりょうのせいり	1
	21 はこの形	5
	22 2年のまとめ	3
	プログラミングのプ	1
	算数をつかって	1

合計139 時間

予備時数36 時間

3 年

	単元	配当 時間
1学期 ↓ 53 前期 ↓ 65 2学期 ↓ 55 後期 ↓ 88 3学期 ↓ 45	1 かけ算	7
	2 時こくと時間	6
	3 わり算	10
	4 倍の計算	1
	5 たし算とひき算	13
	ふりかえろう つなげよう	1
	6 表とグラフ	7
	7 長さ	7
	算数をつかって	1
	8 円と球	7
	9 あまりのあるわり算	5
	10 (2けた) × (1けた) の 計算	1
	11 1けたをかけるかけ算	9
	12 大きい数	10
	13 小数	10
	14 三角形と角	12
	算数をつかって	1
	15 2けたをかけるかけ算	9
	16 分数	10
	17 重さ	11
	ふりかえろう つなげよう	1
	18 □を使った式	5
	図を使って問題を考えよう	-
	19 しりょうの活用	2
	20 そろばん	2
	21 3年のまとめ	3
	プログラミングのプ	1
	算数をつかって	1

合計153 時間

予備時数22 時間

4 年

	単元	配当 時間
1学期 ↓ 54 前期 ↓ 70 2学期 ↓ 60 後期 ↓ 89 3学期 ↓ 45	1 大きい数	6
	2 折れ線グラフ	5
	ふりかえろう つなげよう	1
	3 わり算	4
	4 角	8
	5 (2けた) ÷ (1けた) の 計算	1
	6 1けたでわるわり算	9
	7 しりょうの整理	5
	ふりかえろう つなげよう	1
	8 2けたでわるわり算	12
	9 倍の計算 (1)	1
	図や表を使って問題を 考えよう	-
	算数をつかって	1
	10 垂直・平行と四角形	15
	11 倍の計算 (2) ～かんたんな割合～	1
	12 がい数	10
	13 式と計算	9
	14 小数	10
	15 そろばん	2
	16 面積	11
	ふりかえろう つなげよう	1
	算数をつかって	1
	17 計算のしかたを 考えよう	2
	18 小数のかけ算とわり算	10
	19 倍の計算 (3) ～小数倍～	1
	20 分数	9
	21 直方体と立方体	11
	22 ともなって変わる量	5
	23 しりょうの活用	2
	24 4年のまとめ	3
	プログラミングのプ	1
	算数をつかって	1

合計159 時間

予備時数16 時間

5 年

	単元	配当 時間
1学期 ↓ 65 前期 ↓ 77 2学期 ↓ 58 後期 ↓ 80 3学期 ↓ 34	1 小数と整数	4
	2 合同な図形	9
	3 比例	4
	4 平均	6
	5 倍数と約数	10
	ふりかえろう つなげよう	1
	6 単位量あたりの 大きさ (1)	7
	7 図や表を使って問題を 考えよう	-
	8 小数のかけ算	9
	9 小数のわり算	12
	10 倍の計算～小数倍～	1
	算数をつかって	1
	11 図形の角	7
	12 単位量あたりの 大きさ (2)	5
	13 分数のたし算とひき算	11
	14 分数と小数・整数	6
	15 割合 (1)	5
	16 図形の面積	13
	ふりかえろう つなげよう	1
	17 正多角形と円	9
	算数をつかって	1
	18 体積	8
	ふりかえろう つなげよう	1
	19 割合 (2)	7
	20 いろいろなグラフ	4
	21 立体	7
	22 データの活用	2
	23 5年のまとめ	3
	プログラミングのプ	1
	算数をつかって	1

合計157 時間

予備時数18 時間

6 年

	単元	配当 時間
1学期 ↓ 53 前期 ↓ 72 2学期 ↓ 59 後期 ↓ 58 3学期 ↓ 18	1 対称	12
	2 文字と式	8
	3 分数と整数のかけ算と わり算	8
	図や表を使って問題を 考えよう	-
	4 分数×分数	10
	5 分数÷分数	7
	6 資料の整理	6
	ふりかえろう つなげよう	1
	算数をつかって	1
	7 ならべ方と 組み合わせ方	6
	8 小数と分数の計算	5
	ふりかえろう つなげよう	-
	9 倍の計算～分数倍～	1
	10 円の面積	7
	11 立体の体積	6
	ふりかえろう つなげよう	1
	12 比とその利用	9
	13 拡大図と縮図	9
	14 比例と反比例	14
	算数をつかって	1
	15 データの活用	3
	16 算数のまとめ	4
	プログラミングのプ	1
	算数をつかって	1
	17 算数で見つけた 見方・考え方	9
	18 中学校へのかけ橋	-

合計130 時間

予備時数45 時間

学年のPOINT 1 年

入門期

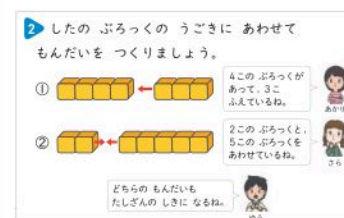
- 1 10までのかず
- 2 いくつといくつ
- 3 なんばんめかな
- 4 あわせていくつ
ふえるといくつ
- 5 のこりはいくつ
ちがいはいくつ
- 6 いくつあるかな
- 7 10よりおおきいかずを
かぞえよう
- 8 なんじ なんじはん
- 9 かたち あそび
- 10 たしたり ひいたり してみよう
- 11 たしざん
- 12 ひきざん
- 13 くらべてみよう
- 14 かたちをつくろう
- 15 大きい かずを かぞえよう
- 16 なんじなんぶん
- 17 たすのかな ひくのかな
ずに かいて かんがえよう
- 18 かずしらべ
- 19 1年のまとめをしよう

小学校に入学して、初めて算数という教科に触れる場面が「入門期」です。ここでは、数に親しみながら、ものや形を数に置き換えたり、抽象化したりして考えていく「算数」が好きになるように、身のまわりのイラストなどを積極的に扱っています。



1 年上 p.2-3

1年のたし算の初めに、「あわせていくつ(合併)」と、「ふえるといくつ(増加)」の2つの学習をします。この違いについて理解できるように、ブロックを使った問題作りや、「たしざんえほん」を作る活動を取り扱っています。



1 年上 p.49



1 年上 p.52

子どもたちは、時計やカレンダーを読む際に、30程度までの数を扱うことが多くあります。できるだけ早くそのような数に触れることができるように、10より大きい数を扱う段階で、30程度までの数を扱うようにしています。



1 年上 p.85

直接比較から間接比較、任意単位へと写真や図をもとにして学習できるようにしています。

〔直接比較〕



〔間接比較〕



〔任意単位〕



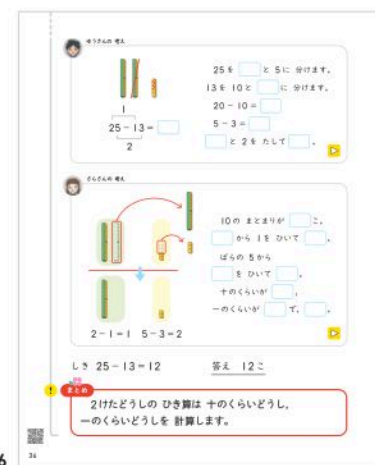
1 年下 p.32-34

学年のPOINT 2 年

- 1 ひょうと グラフ
- 2 時こくと 時間 (1)
- 3 2けたの たし算と ひき算
- 4 たし算の ひっ算
- 5 ひき算の ひっ算
- 6 長さ (1)
- 7 たし算と ひき算 (1)
- 8 1000までの数
- 9 大きい数の
たし算と ひき算
- 10 水の かさ
- 11 三角形と 四角形
- 12 かけ算 (1)
- 13 かけ算 (2)
- 14 かけ算 (3)
- 15 分数
- 16 時こくと 時間 (2)
- 17 10000までの数
- 18 長さ (2)
- 19 たし算と ひき算 (2)
- 20 しりょうのせいり
- 21 はこの形
- 22 2年のまとめ

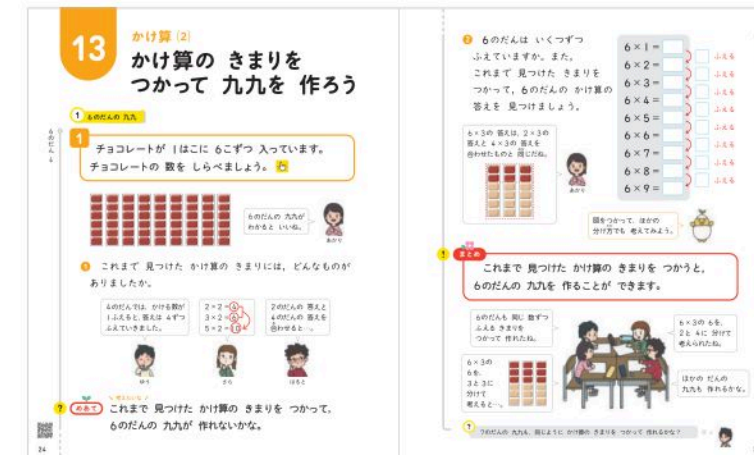
「計算のしかたを考えよう」単元

2桁同士のたし算・ひき算の計算のしかたを、1年で学んだたし算・ひき算をもとにしてブロックなどを使って考える単元です。桁数が増えても、これまでと同じように計算できることを実感できるように、筆算の学習に入る前に独立した単元として扱っています。



2 年上 p.36

「かけ算(1)」で、5, 2, 3, 4の段の九九を学び、そのきまりを発見します。そこから、6の段以上の九九も同じようにきまりが成り立つと考えて、九九を自分たちで作っていく展開としています。

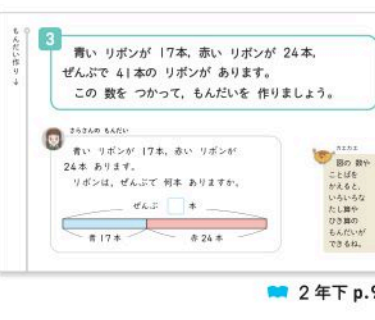


2 年下 p.24-25

2年から、計算をするときに使う図について、ブロックなどの半具体物からテープ図へと表現が変わってきます。子どもたちが自然と図の表現に慣れていくことができるように、図を使って考える単元を2つに分け、より習熟ができるようにしています。



2 年上 p.80

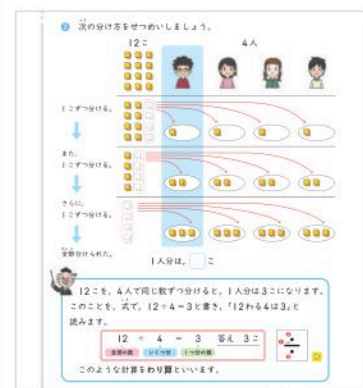


2 年下 p.97

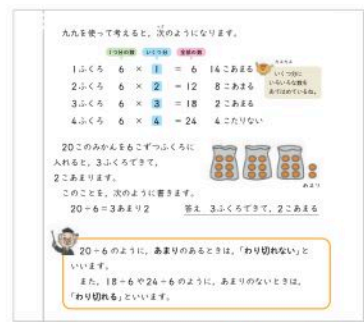
学年のPOINT 3年

- 1 かけ算
- 2 時と時刻
- 3 わり算
- 4 倍の計算
- 5 たし算とひき算
- 6 表とグラフ
- 7 長さ
- 8 円と球
- 9 あまりのあるわり算
- 10 (2けた) × (1けた) の計算
- 11 1けたをかけるかけ算
- 12 大きい数
- 13 小数
- 14 三角形と角
- 15 2けたをかけるかけ算
- 16 分数
- 17 重さ
- 18 □を使った式
- 19 しりょうの活用
- 20 そろばん
- 21 3年のまとめ

3年から学習が始まるわり算は、子どもたちが苦手としている内容の1つです。この学年で初めてその概念を学び、4年の学習へとつなげていくことになります。そのため、1学期で「わり切れるわり算」、2学期で「あまりのあるわり算」といったように、少し離れた位置で学ぶことで、スパイラルな学習ができるようにしています。



3年上 p.38



3年上 p.120

「計算のしかたを考えよう」単元

2年のたし算やひき算と同じように、筆算を学ぶ前に、図を利用して、既習をもとに九九を超えるかけ算の計算のしかたを考えるために、独立した単元として扱っています。この単元の学習を経験して、位ごとに分けて考えることに気づくことで、筆算のしくみについて、より理解ができるようにしています。



3年下 p.4



3年下 p.52-53

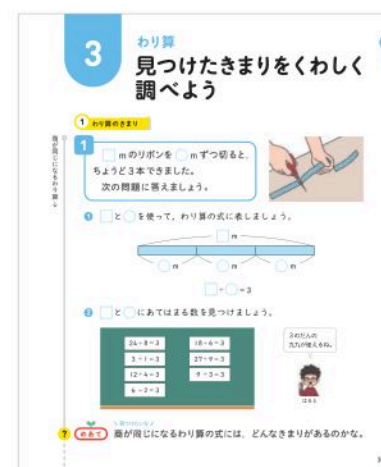


導入では、三角形をストローで作る活動を通して、正三角形や二等辺三角形、一般三角形に分類できることに気づくことができるようにしています。まずは、見た目での分類、色での分類、ぶら下げたときの様子での分類などを並列で扱うことで、分類のしかたにもいろいろあることに気づき、その中でも辺の長さに着目すると、正三角形や二等辺三角形という定義につながる事が実感でき、それぞれの図形の性質にも自然と気づけるように配慮しています。

学年のPOINT 4年

- 1 大きい数
- 2 折れ線グラフ
- 3 わり算
- 4 角
- 5 (2けた) ÷ (1けた) の計算
- 6 1けたでわるわり算
- 7 しりょうの整理
- 8 2けたでわるわり算
- 9 倍の計算 (1)
- 10 垂直・平行と四角形
- 11 倍の計算 (2)～かんたんな割合～
- 12 がい数
- 13 式と計算
- 14 小数
- 15 そろばん
- 16 面積
- 17 計算のしかたを考えよう
- 18 小数のかけ算とわり算
- 19 倍の計算 (3)～小数倍～
- 20 分数
- 21 直方体と立方体
- 22 ともなって変わる量
- 23 しりょうの活用
- 24 4年のまとめ

まず「わり算」で、3年で学んだわり算の意味やまりについて復習を兼ねた学習をし、「(2けた) ÷ (1けた) の計算」で、3年のわり算を拡張することで、スパイラルな学習ができるようにしています。その後、「1けたでわるわり算」、「2けたでわるわり算」で本格的なわり算の筆算について学習していきます。わり算の筆算については、そのアルゴリズムを無理なく理解できるよう、スモールステップで展開しています。

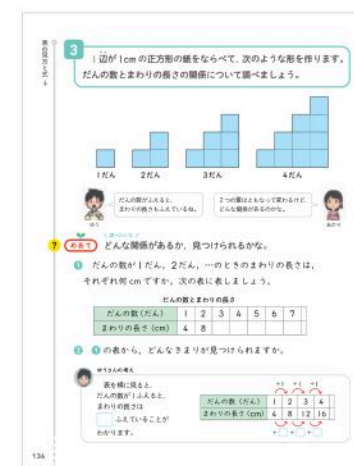


4年上 p.39

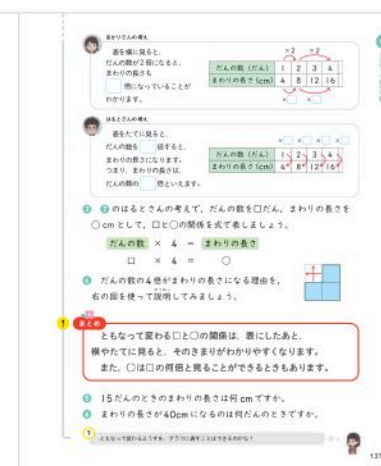
4年では、倍概念を学習する内容として、かんたんな割合や小数倍など、これまでの倍よりもより高度な内容になってきます。そのため、まとめて扱うのではなく、学期に1箇所ずつに分けることで、少しずつ倍や割合が理解できるようにしています。



4年上 p.138



4年下 p.136-137



「ともなって変わる量」や「比例」の学習に出てくるような関数関係を表す表は、4年が初出となります。表を縦に見たり横に見たりすることで、見えてくるものが違うことを丁寧に扱っています。

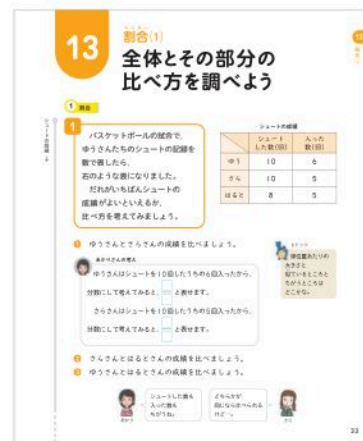
学年のPOINT 5年

- 1 小数と整数
- 2 合同な図形
- 3 比例
- 4 平均
- 5 倍数と約数
- 6 単位量あたりの大きさ (1)
- 7 小数のかけ算
- 8 小数のわり算
- 9 倍の計算～小数倍～
- 10 図形の角
- 11 単位量あたりの大きさ (2)
- 12 分数のたし算とひき算
- 13 分数と小数・整数
- 14 割合 (1)
- 15 図形の面積
- 16 正多角形と円
- 17 体積
- 18 割合 (2)
- 19 いろいろなグラフ
- 20 立体
- 21 データの活用
- 22 5年のまとめ

単位量あたりの大きさや割合の学習は、子どもが苦手とする内容の1つです。より丁寧にスモールステップで学習を進めることで、子どもたちの理解に繋がります。単位量あたりの大きさは、単位量あたりの「基本的な内容」と「速さ」に分け、割合は「全体と部分の割合」と「部分と部分の割合」に分けて、スパイラルな学習ができるようにしています。



5年上 p.77

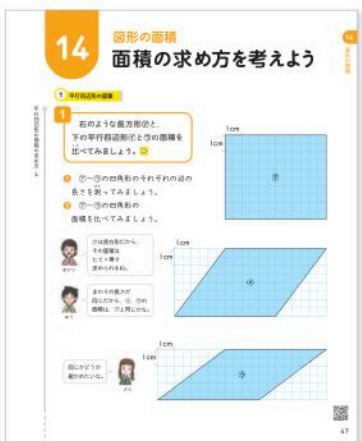


5年下 p.33

データの活用では、野菜を食べている量の比較をする課題について、話し合いを通して自分たちなりの解決をしていくことができるようにしています。また、その流れが自然にPPDACサイクルとなるように展開することで、実感をもって解決のしかたに目を向けることができるようにしています。



5年下 p.140



5年下 p.47

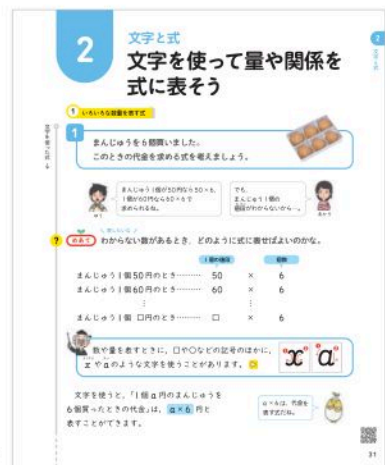
長方形を、まわりの長さを変えずに傾けて平行四辺形を作る活動を通して、平行四辺形の面積の求め方を考えられるようにしています。三角形の面積の求め方を学習する前に平行四辺形の面積の求め方を学習することで、等積変形、倍積変形ともに、多様な考え方が出やすくなります。

学年のPOINT 6年

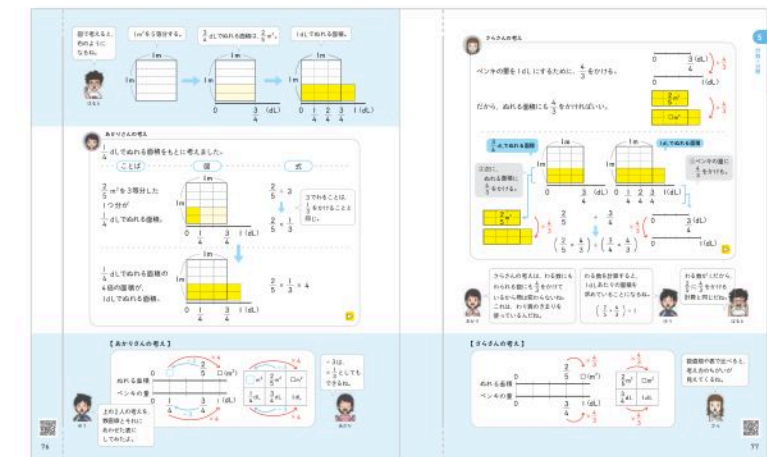
- 1 対称
- 2 文字と式
- 3 分数と整数のかけ算とわり算
- 4 分数×分数
- 5 分数÷分数
- 6 資料の整理
- 7 ならべ方と組み合わせ方
- 8 小数と分数の計算
- 9 倍の計算～分数倍～
- 10 円の面積
- 11 立体の体積
- 12 比とその利用
- 13 拡大図と縮図
- 14 比例と反比例
- 15 データの活用
- 16 算数のまとめ
- 17 算数で見つけた見方・考え方

学年の早い段階で「文字と式」の学習をすることで、文字を使った式を、以後の学習で活用できるようにしています。また、文字式を使って式に表すだけでなく、文字式を読む活動を同時に扱うことで、文字式がもつ意味を理解できるようにしています。

6年 p.31



分数÷分数では、図、表、式の関連を明確に示し、考察することを通して、より分数の除法のイメージをもちながら学習を進められるようにしています。



6年 p.76-77



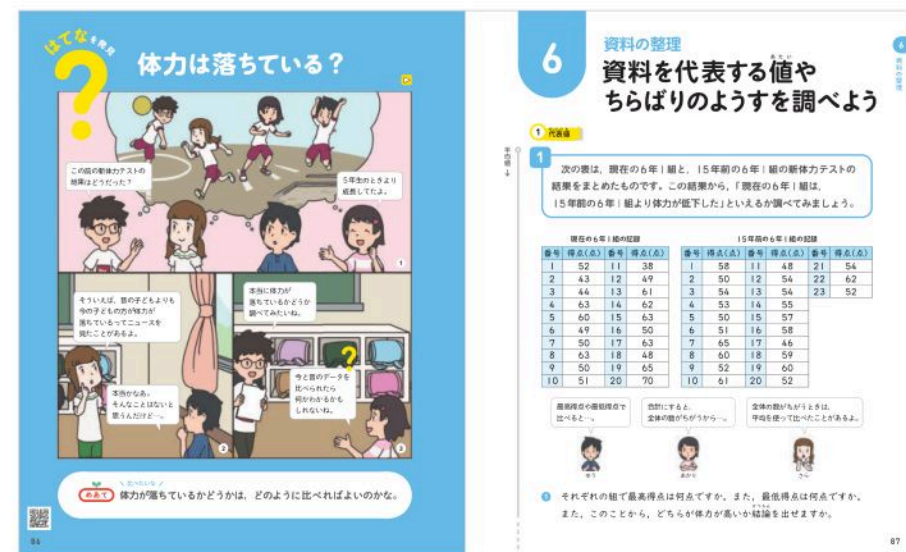
6年 p.86

自分たちの体力が、昔の子どもより落ちているかどうかを、新体力テストをもとに考察する課題を設定しています。初めは全体の結果を比べ、そこから批判的思考をもって進めていくことで、ソフトボール投げの記録を調べたり、ほかの種目で調べたりする必要があることに気づけるような展開としています。また、統計領域である「資料の整理」の単元を1学期の終わりに位置づけることで、夏休みの課題などにも活用でき、問題を自ら見つけ、取り組むことができるようにしています。

GAKUTOのPOINT 統計学習の充実

統計学習では、グラフのかき方や表のまとめ方を
 することはとても大切な学習です。しかし、それらから
 情報を読み取り、分析したり、その傾向を読み取った
 りして考察することもとても大切な学習となります。

各学年の統計単元では、「整理」単元と「活用」単元に分けることで、必要な知識をまず身につけた上で、それを活用していけるようにしています。



6年 p.86-87

6年「**6** 資料の整理」では、代表値やドットプロット、柱状グラフのかき方や読み取り方を学ぶことを目的としています。



「14 データの活用」では、これまで身に付けた知識を活用して問題解決していく課題を扱っています。

考察場面



6 年 p.212-214

問題意識をもつ場面

統計の学習では、特に、問題意識をもって課題に取り組み、その分析をしていくことが大切となります。問題発見場面や考察場面では、教科書紙面に話し合いの場面を積極的に扱うことで、問題意識のもち方を追体験できるようにし、これからの社会を生きていくために必要な力を育むことができるようにしています。

GAKUTOのPOINT 縦横の連携

幼保小連携

小学校に入学する前の子どもたちは、算数を意識していなくても、遊びの中でものの数を数えたり、数や大きさを比べたりすることを経験しています。1年の最初に、「どんなあそびをしてきたかな？」として、そのことを想起してから、入門期で数を数えたり比べたりする活動にスムーズに入れるように配慮しています。

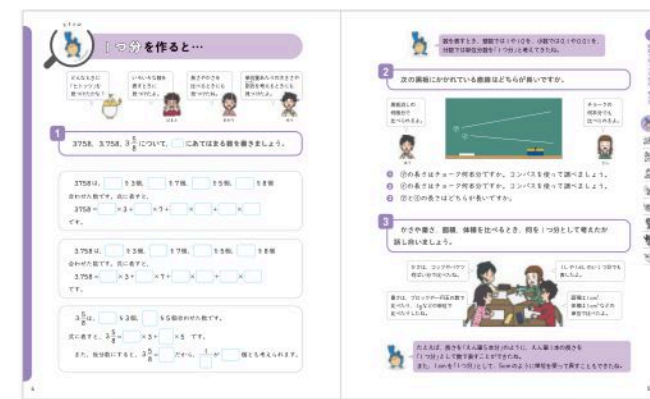
CHECK! →

入門期から単元1のイラストをつなげると…



小中連携

中学校に上がると、「算数」から「数学」へと変わり、これまで学んできた算数の世界がもっと広がりを持つようになり、子どもたちはそこにギャップを感じます。しかし、そのことが算数・数学嫌いの原因の1つになってしまうことのないように、これまで培ってきた「見方・考え方」が中学校の学習でも役立つことを実感できるものとして、6年別冊「中学校へのかけ橋」を用意しています。ここでは、6年間で学んできた算数をふりかえると同時に、少し先の学びに触れることができ、興味・関心をもって取り組むことができるようにしています。



6 年別冊 p.4-5



1 年上 p.4-5

他教科との連携

算数の教科書で学ぶことは、基本的に算数・数学の学習です。しかし、算数の教科書の中であっても、さまざまな教科の学びに触れることで、算数の中にある他教科の学びに気づいたり、他教科の中に算数の学びがあることに気づいたりできるようにしています。



6年 p.210

理科 ～ふりこ～

4 めぐみさんは、理科の実験で、ふりがこが10往復する時間を調べました。ふりがこが1往復する平均の時間を求めましょう。

ふりがこが往復する時間

回数	1 往復	2 往復	3 往復	4 往復	5 往復
10 往復の時間(秒)	15	23	14	13	14
1 往復の時間(秒)	1.5	2.3	1.4	1.3	1.4

① 上の表を見て、求める方を話し合ひましょう。



はかりの重さから大きく
はなれた値があるね。

めぐみ



その値も同じようにあつていい
のかな。

めぐみ

📅 5 年上 p.5

📖 5 年上 p.50

CHECK!
他教科との
関連はこちら



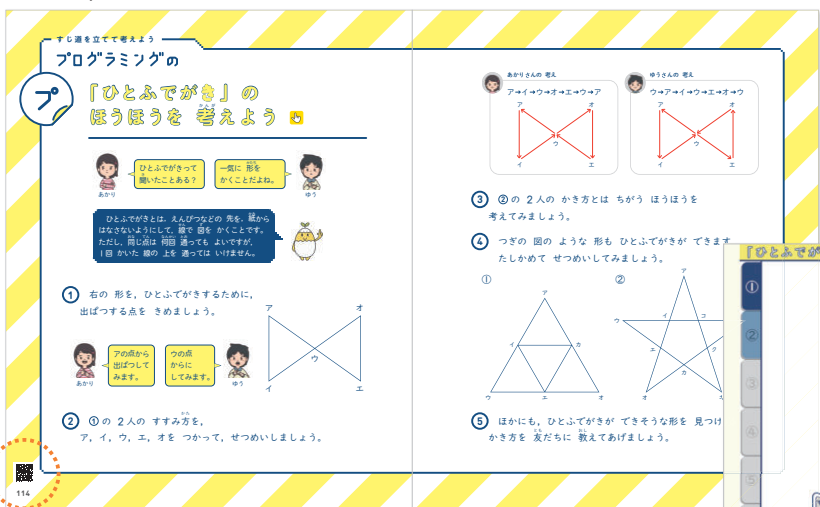
GAKUTOのPOINT ICT活用

プログラミング

算数の学習において、論理的に物事を捉えることはとても重要な考え方です。本単元の学習においても、さまざまな場面で論理的に物事を捉え考察していくようにしていますが、さらにプログラミング的思考に触

れることで、より筋道を立てて考えることの大切さに気づくことができるように、すべての学年に「プログラミングのプ」のページを用意しています。

2年下 p.114-115



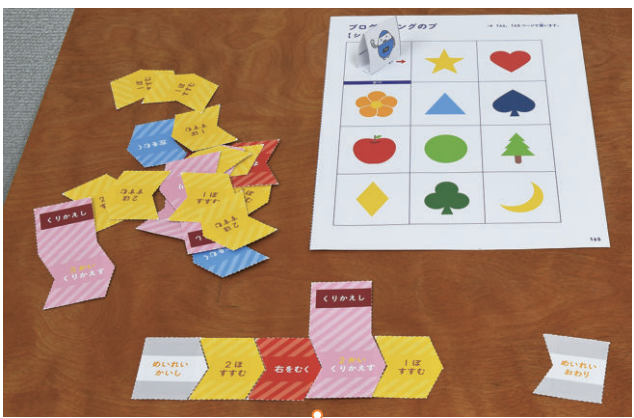
CHECK!

右のQRコードから実際に試すことができます。



タブレットやスマートフォン、パソコンなどで実際に動かすことのできる簡易的なサイトを用意しています。実際に動かすことで、プログラミング的思考、論理的な思考が身につくようにしています。

1年下 p.80-81



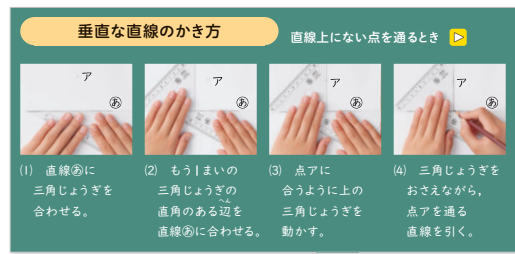
コンピュータを使わなくても体験できるように、1年、3年の課題には切り取って使える付録を用意しています。まずは手を動かして試行錯誤を繰り返して体験することで、プログラミング的思考を育むことができるようにしています。

デジタルコンテンツ

ICT教育の一環として、教科書で学んでいく際に役立つデジタルコンテンツを用意しています。デジタルコンテンツはインターネット上で活用することができます。該当ページにはそれぞれQRコードを、該当箇

所にはどのような内容が含まれているかわかるように右下の5つのマークをつけています。

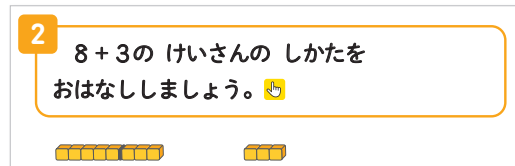
※ QRコードのコンテンツの使用料は発生しませんが、通信費は自己負担となります。
※ QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。



4年上 p.117



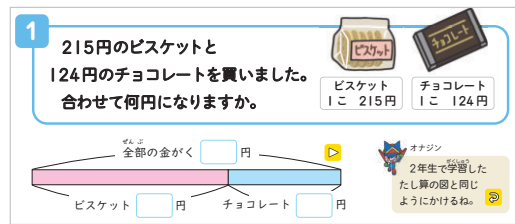
動画例



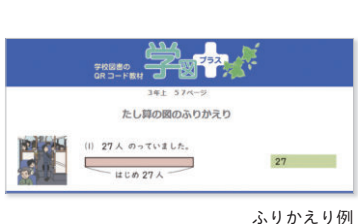
1年下 p.12



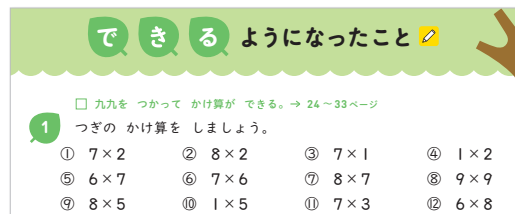
操作例



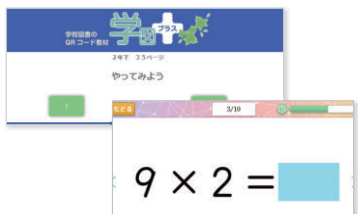
3年上 p.57



ふりかえり例



2年下 p.35



補充問題例



5年下 p.88



リンク例

QRコードについて

右のマークがあるところでは、インターネットを使って学ぶことができます。



- …図のかき方や計算のしかたなど、動画を見ながら、学ぶことができます。
- …自分で動かしたり操作したりして、学ぶことができます。
- …前の学年や、前の学びをふりかえりながら、学ぶことができます。
- …わからなかった問題や、もっといろいろな問題をしたいときに使うことができます。
- …資料や、資料のあるインターネットサイトを見ながら、学びを深めることができます。

QRコンテンツ箇所数

1人1台端末を持っている多様な子どもたちに対応できるように、6学年で610ヶ所のコンテンツを用意しています。実際に子どもたちに必要なコンテンツを選択して使うことができます。

学年	上	下	合計
1	52	38	90
2	69	53	122
3	58	59	117
4	54	41	95
5	58	58	116
6		70	70

CHECK!
QRコンテンツはこちら



GAKUTOのPOINT 個別最適な学び

多様な考え方

多様な社会に対応すべく、多様な子どもたちが、それぞれの個性を伸ばしていくことが大切です。いろいろな考え方を提示し、それらの考えに触れることで、自分に適した考えや思考に出会うことができるようにしています。

① 次の4人の考えを説明しましょう。

あかりさんの考え

1cm²の正方形の数を数えます。



はるとさんの考え

2つの長方形に分けて計算します。



ゆうさんの考え

大きい長方形を考えて、へこんだところをひいて計算します。



さらさんの考え

動かして1つの長方形にして計算します。



② ①の考えで、いつでも使える考えはどれですか。

4 年下 p.63

もっと算数

巻末には、「もっと算数」として、「ほじゅう問題」と「ふかめよう」を掲載しています。「ほじゅう問題」では、各単元で学んだことの補足的・発展的な問題に取り組むことができます。また、「ふかめよう」では、興味・関心をもって取り組むことができる課題を掲載しています。

12 かけ算(1)

1 つぎのブロックは、いくつありますか。

かけ算のしきにあらわして、ぜんぶの数を求めましょう。

①  ②  ③  ④  ⑤ 

2 つぎの□にあてはまる数を書きましょう。

6×□の答えは、6+6+6+6+6+6の答えと同じです。

3 つぎのテープの長さは、□のテープの長さの何倍ですか。

①  ②  ③  ④ 

4 1つのへんが5cmの正方形があります。まわりの長さは何cmですか。

5 おり紙を1人に2まいずつ6人にくばります。おり紙は、ぜんぶで何まいいりますか。

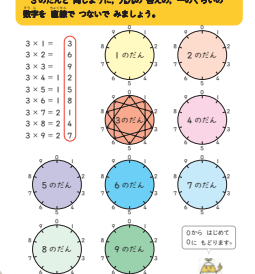
6 1つの長いすに3人すわれます。長いすが5こあると、何人すわれますか。

7 1本のくしに、だんごが4こずつさしてあります。4本だと、だんごは何こありますか。

2 年下 p.120

九九でもよう作り

3のだんと同じように、7ののりえの、一ののりの数字を直線でつないでみましょう。



2 年下 p.128

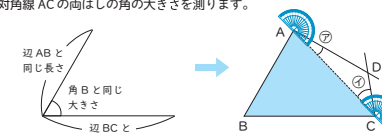
補助的なQRコンテンツ

子どもたちの中には、問題文と図や表、式との対応を理解することが難しいと感じる子どももいます。そのような課題では、QRコンテンツを用意し、動的に見ることができるようにしています。

また、単元末には自分で解答のチェックができる問題コンテンツを用意しています。苦手な箇所の補足的な意味合いとしても、もっといろいろな問題に取り組みたいときにも使えるようにしています。

ゆうさんのかき方

三角形のときの考えを使って、頂点Dを決めます。対角線ACの両はしの角の大きさを測ります。



5 年上 p.30

QRコンテンツ



できるようになったこと

□ ひっ算のしかたのいみがわかる。→ 43ページ

1 67+28のひっ算のしかたをまとめましょう。

① 一のくらは7+8の計算をして、15。

一のくらは□。

十のくらは□くり上げる。

② 十のくらは、6+2+□=9

③ 答えは、□。

2 年上 p.49

26+37のひっ算のしかたをまとめましょう。

① 一のくらは6+7の計算をして□。

一のくらは□。

十のくらは□くり上げる。

② 十のくらは2+3+□=6

③ 答えは、□。

QRコンテンツ

GAKUTOのPOINT ユニバーサルデザイン

UDフォント

文節改行

インクルーシブ教育に配慮し、すべての子どもが読みやすく理解しやすい教科書にするために、本文などはUDフォントを使い、文節での改行をすることで、これまで以上に文章を読む段階でつまづくことがないように配慮しています。

カラーバリアフリー

すべてのページで、色覚特性についてチェックをし、見やすく区別しやすい色、デザインを採用しています。

AB版

教科書の版型にAB版を採用することで紙面が整理され見やすくなり、また教科書上で作業をする際も、広く使えるようにしました。

R2年度版

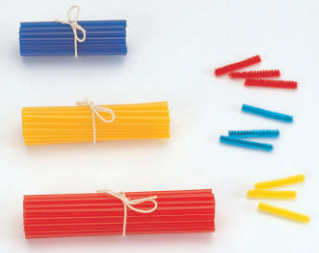
数や量を表すときに、□や○などの記号のほかに、 x や a のような文字を使うことがあります。

R6年度版

数や量を表すときに、□や○などの記号のほかに、 x や a のような文字を使うことがあります。

いろいろな長さのストローで、三角形を作りましょう。

青 黄 赤



3 年下 p.52

はるとさんのグラフ

ぼくは、ぼうをならべてみたよ。

3年生のすきなきゅう食のメニュー

メニュー	1組 (人)	2組 (人)
とりのからあげ	9	8
ハンバーグ	8	4
カレーライス	7	3
オムライス	4	3
スパゲティ	3	2

3 年下 p.131

2 ①のさくらさんやあかりさんのやり方で分けてみましょう。



3つの辺が同じ長さ

①、②、③は、それぞれどんな三角形のなかまですか。

同じしほのストローは、同じ長さだね。

166ページの三角形を切ってみよう。

GAKUTOのPOINT 教育課題に応えます

環境教育

ゴミの問題から二酸化炭素排出量の問題まで、身のまわりには環境に関する問題がいろいろあります。それらは子どもたちが生きていく社会でとても重要な問題であり、少しずつ意識できるように、算数の学びの中でもそれらに関する課題を設定しています。



2 年上 p.100

1 地球温暖化について調べると、空気中の二酸化炭素の量が蓄積していることが一つの原因だとわかった。そこで、日本ではどのくらい二酸化炭素を出しているか調べたところ、次の表のようになりました。下の問いに答えよう。

年	二酸化炭素を出した量(1000kg)	人口(万人)	1人あたりの二酸化炭素を出した量(kg)
1994	123200000	12527	
1999	124600000	12667	
2004	128600000	12779	
2009	116500000	12803	
2014	126500000	12724	
2019	110800000	12617	

5 年上 p.87

道徳教育

他者の意見を尊重したり、他者への思いやりを持つことは、豊かな情操や道徳心、生命を尊重する態度につながります。算数の学習の中でもそれらに触れることができるように配慮しています。



2 年下 p.92



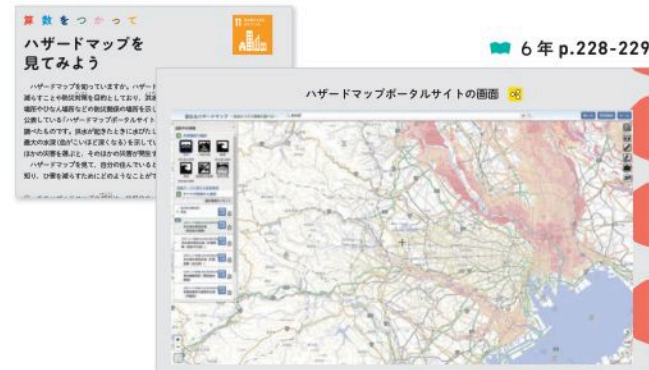
1 年上 p.71

安全・防災教育

安全・防災について考えることは、子どもたちが自分や家族、友だちなどの身近な人たちはもちろんのこと、すべての生命に関わる大切な課題です。日頃から意識できるように、算数の教科書の中でも多くの課題を取り上げています。



3 年上 p.100



6 年 p.228-229

情報教育

ICTを活用する際、情報の取り扱い方など気をつけるべきことはたくさんあります。扱い方を間違えてしまわないよう、教科書では情報リテラシーを身につけ、意識的に気をつけられるように配慮しています。



6 年 p.104

キャリア教育

キャリア教育の一環として、次のような配慮をしています。

「人間関係形成・社会形成能力」を育むために、本文や特設ページ全体を通して他者と協働の場面を積極的に取り上げたり、話し合いから活動を始めたりできるような構成としています。

「自己理解・自己管理能力」を育むために、「算数をつかって」では、自己評価のできるシートを用意したり、「できるようになったこと」では、自分の苦手な内容に戻ることができるように振り返りページを提示

しています。

「課題対応能力」を育むために、「算数をつかって」で様々な課題に取り組む際に必要な情報を選択し解決したり、統計単元ではPPDACサイクルを意識した展開にしたりしています。

「キャリアプランニング能力」を育むために、単元の導入「?を発見」では自分たちで課題を発見する場面から学びを始めたり、課題を主体的に解決していくことを通したりして、社会人として生きていくための素地を養うことができるようにしています。



5 年下 p.152-154



5 年下 p.143

伝統文化

教科書の課題の中で、伝統文化に関する話題に触れる機会を多く設けることで、我が国と郷土を愛する気持ちを育むことができるようにしています。



2 年下 p.117

国際理解

問題場面や教材、イラストなど、日本だけでなく海外の人や文化に慣れ親しむことができるように工夫しています。



1 年下 p.77



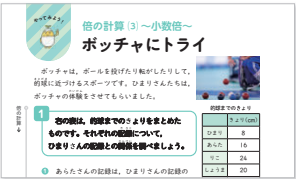
6 年 p.252

観点別特色一覧表

1 目標と取り扱い内容

	観点	特色	具体的な事例
1 教科目標と取り扱い	① 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して資質・能力が育成できるように配慮されているか。	① 数学的な見方・考え方をキャラクター化することで、覚えやすく使いやすい、児童に寄り添った形式にしています。 ② 実際の授業に沿った問題解決的な展開にし、数学的活動を通して学習を進められるようにしています。 ③ 単元の終わりに、その単元の内容を見方・考え方の視点でまとめ、ふりかえりができるようにしています。	● 2年以上の各学年上巻の冒頭と全学年の下巻の巻末(6年は本冊の冒頭と巻末)に「 算数で見つけたい！考え方モンスター 」を設け、 見方・考え方を具体的な例を示しながら解説し、意識して使える ようにしています。【2年上p.9, 5年下p.170など】 ● 各学年の上巻冒頭と下巻巻末に「 〇年生で見つけた見方・考え方 」を設け、 前の学年で身につけた見方・考え方を領域の学習ごとにふりかえったり、考え方モンスターごとに当該学年の学習をふりかえったりすることができる ようにしています。【2年上p.10-11, 3年下p.163-164など】 ● 単元内の学習では、効果的な場面で、「考え方モンスター」をページ右側の側注として提示することで、具体的な場面で活用できる 見方・考え方が育成 できるようにしています。【 全学年 】 ● 単元末に、その 単元で見つけた見方・考え方をどのように使って学習してきたかをふりかえる「考え方モンスターでふりかえろう！」 を設けています。【3年下p.127, 4年上p.137など】 ● 単元の流れを「 ？を発見 」で問題発見から始めながら解決し、新たな疑問として「 つながりの？ 」を明示することで、 学習サイクルが明確になる ようにしています。【 全学年 】
	→ 詳細は8～11ページ		
	② 数量や図形などについての基礎的・基本的事項を理解し、日常の事象を数理的に処理する技能を身につけられるように配慮されているか。	① 数、量、図形についての基礎的・基本的内容に重点をおいて構成し、概念や原理の習得ができるようにしています。 ② 数学的活動を通して基礎的な知識や技能の習得ができるようにするとともに、より理解を深められるように配慮しています。 ③ 生活場面から素材を求め、学習した知識や技能を活かして問題解決が進められるようにしています。	● 低学年では、 基礎的な知識・技能や概念・原理の理解が十分図れる ことに重点をおいています。【1年下p.21-23, 2年上p.88-94など】 ● 中学年では、低学年で学習したことをもとに「 考える 」を育てることに重点をおいています。【3年上p.59-61, 3年下p.2-5, 4年上p.62-65など】 ● 高学年では、低・中学年で学習した知識・技能や概念・原理を活用し、自ら課題を発見し、 主体的に「考え」、「活用する」態度を育てる ことに重点をおいています。【5年上p.77-79, 5年下p.91-95, 6年p.61-64など】 ● 基礎的・基本的な内容が理解できているかどうか、全国学力・学習状況調査の中で正答率が低い内容や、 児童のつまずきやすい内容をもとに確認 できるように「 算数パトロール隊 」を設けています。【3年下p.117, 4年下p.73, 5年上p.89など】 ● 算数の学習に必要な用語や定義と、学習を通して児童自らが発見した考え方やきまりを、区別して表示しています。【各ページの重要事項のマークやまとめ】 ● 日常の事象への知識や技能の活用を図るために、各学期末には、その学期で学習した内容を使って問題を解決する場面として、「 算数をつかって 」を設けています。【2年下p.58-59, 3年上p.100-101, 4年上p.110-111, 6年p.104-105など】
1 教科目標と取り扱い	→ 詳細は12～16ページ		
	③ 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考える力、数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養うことができるように配慮されているか。	① 日常を算数の目で捉える場面を取り上げ、新しい課題に主体的に取り組み、また、そのような態度が育成できるような展開にしています。 ② 展開の基本を問題解決学習におき、論理的思考力や直感力の育成が図れるようにしています。 ③ 体験や活動を重視し、それらを通して考察していく展開にしています。 ④ 学習した内容に対して、児童自らが問いを見つけて、活用・発展していくように工夫しています。 ⑤ 授業における話し合い活動のもとに、他者に伝えるためにどんなことが必要であるかを実感できるようにしています。	● 単元の冒頭では、 日常生活などの場面から問題を発見し、それを算数の課題として取り組む ことができる場面として、「 ？を発見 」を設けています。【2年上p.30, 3年上p.26など】 ● 既習事項を想起し、それをもとに解決の方法を考えたり、答えの見積もりをしたりする態度を育成するために、吹き出しを有効に活用しています。【2年上p.55, 4年上p.92など】 ● 新たな問題解決のために、既習の問題と対比して解決の方法を考える場면을、各単元や「 計算のしかたを考えよう 」単元で積極的に取り入れています。【2年上p.30-37, 3年下p.2-5, 4年上p.62-65など】 ● 数量を表す際には、ブロックなどの具体物を積極的に用いて量感覚が具体的にイメージできるようにしています。【1年下p.47, 2年上p.88など】 ● 実際に図形を作って観察する活動を通して、その性質を認識し、分類する展開になっています。【3年下p.52-55, 4年上p.112-113など】 ● 条件変更した場合の考察など、さらに学習を進めたくなるように、吹き出しを有効に活用しています。【3年下p.76, 5年下p.55など】 ● 既習事項をふりかえることで、 これまでの学習内容を統合的に考察する 場面として、「 ふりかえろう つなげよう 」を設けています。【5年上p.74-75, 6年p.102-103など】 ● 図や表については、 段階に応じて系統的に身につけられる ように「 図や表を使って問題を考えよう 」を設けています。【3年下p.128-129, 4年上p.108-109など】 ● 友だちの考えを読み取ったり、その考え方を適用して自分の言葉でまとめたりするなど、普段の授業で意識できるように配慮しています。【4年上p.127, 6年p.76-77など】 ● ノート指導を通して、自分の考えや友だちの考えをまとめることが身につくように、各学年の冒頭に「 ノート名人になろう 」を設けています。【3年上p.6-7, 5年上p.6-7など】
	→ 詳細は4ページ		

	観点	特色	具体的な事例
1 教科目標と取り扱い	④ 数学的活動の楽しさや、数学のよさに気づき、よりよく問題解決しようとする態度や、進んで生活や学習に活用する態度を養うことができるように配慮されているか。	① 生活場面から課題を提示し、それを数理的に思考していく学習を通して、数理的な処理のよさが実感できるようにしています。 ② 課題を解決していく楽しさと充実感を味わえるようにしています。	● 課題は、 児童の身近な生活場面から多く取り入れ 、数理的な処理のよさを感じられるようにするとともに、生活への適用の場面も多く入れています。【2年上p.14-15など】 ● 日常の事象から問題を見つけ、 協働的に解決していく ことを通して、数学のよさに気づき、さらに数学を活用することに意義を感じることができるようにしています。【1年下p.40-41, 4年上p.110-111など】 ● 切り取って使える折り込みやゲームのできる折り込みを設け、ミシン目を入れて切り取り易くし、児童が活動を通して学習できるようにしています。【 全学年付録 】
	→ 詳細は4ページ		
2 教育基本法の趣旨の反映	① 幅広い知識と教養を身につけ、豊かな情操を養うように配慮されているか。	① 既習の知識や技能を使って、未知の課題を解決する場面を設定することによって、真理を求める態度を養えるようにしています。	● 学年の冒頭には「 みんなと学ぼう！算数の学び方 」を設け、 学びに向かう姿勢を示す とともに、単元の学習では身近な生活場面を多く取り入れ、幅広い知識と教養が身につくように配慮しています。【2年上p.2-5, 6年p.2-5など】
	② 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うように配慮されているか。	① 生活場面を取り上げて自律の精神を養えるようにするとともに、多様な考えやイメージを引き出す課題を設定して創造性が培われるようにしています。	● 個に応じて考えることができるように、多様な考え方を示したり、多様な求め方を認めたりすることで、 個人の価値を尊重し、その能力を伸ばす ことができるようにしています。【3年下p.4など】 ● 各学期末では「 算数をつかって 」を設け、様々な日常生活の話題に触れることで、職業や生活と算数との関連を重視する態度を養うように配慮しています。【 全学年 】
	③ 正義と責任、男女平等、自他の敬愛と協力を尊重する公共の精神に基づき、主体的に社会に参画し、その発展に寄与する態度を養うように配慮されているか。	① 課題を解決する際に、自他を認め、互いに協力することを意識しています。	● 男女平等の精神にのっとり、教科書に掲載する男女児童の名前はすべて「さん」付けとしています。【 全単元 】 ● 4人の成長するキャラクターを設定し、協力して課題を解決していく様子を示すことにより、 自他を敬愛し協力を重んずる態度を養う ように配慮しています。【 全単元 】
	④ 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うように配慮されているか。	① 様々な場面で生物を登場させ、児童と関わることによって、生命の尊さを実感できるようにしています。 ② 身近で児童が実行できる活動を取り上げ、自然や他者の命を守る心が養われるようにしています。	● レッドリストなど絶滅危惧種の数を扱うことによって、他の生物に興味をもち、 生命を慈しむ態度を養う ように配慮しています。【3年下p.70-p.71】 ● 海洋プラスチックゴミの問題やゴミの分別の問題、地球温暖化などを扱うことによって、 環境の保全に寄与する態度を養う ように配慮しています。【3年下p.146-147, 4年上p.110-111, 6年p.212-214など】
	⑤ 伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うように配慮されているか。	① 地域に伝わる伝統的な行事や産物、外国の人々や建物を扱うことによって、郷土を愛する心や平和と発展について関心をもつようにしています。	● 世界の建物やその国の人口、計算のしかた、他国の数学者などを紹介することによって、世界の国々に関心をもち、 他国を尊重する基礎を育む 配慮しています。【4年上p.14, p.99, 5年下p.83など】 ● 我が国の自然・歴史・文化や数学者、都道府県のマークなどを取り扱うことで、 郷土を思う気持ちや伝統文化に興味をもてる ように配慮しています。【4年上p.125, 6年p.23-24など】 ● オリンピックの種目や施設を扱うことにより、平和に対する人々の思いに触れられるようにしています。【4年下p.98-99など】
	→ 詳細は34～35ページ		
2 教育基本法の趣旨の反映	→ 詳細は35ページ		



II 指導計画の作成と内容の取扱い

	観点	特色	具体的な事例
1 主体的・対話的で深い学びの実現	① 主体的な学びが実現できるように配慮されているか。	① 自ら課題に働きかけ、自力解決できる姿を育てられるように配慮しています。 ② 課題を発見し、児童が自分で学習を進めることができるように配慮しています。	● 2年以上の単元の導入では、「？を発見」で場面イラストを用い、これから学習する内容についての興味を喚起するとともに、学習への導入の円滑化を図っています。【4年下p.2、5年上p.12など】 ● 学習の「めあて」は、児童の中から自然に発生するように、課題について考えたり話し合ったりする中から出てくるようにして、学習意欲が持続する配慮をしています。また、「めあて」を示している箇所では、「知りたいな」、「調べたいな」などのガイドも同時に示すことで、児童の主体性を促すことができるように配慮しています。【3年上p.27、3年下p.46、5年上p.98など】 ● 単位時間の終わりでは、学習したことから生まれた新たな疑問について考えていけるように、「つながりの？」を設けています。【全単元】 
	→ 詳細は4～5ページ		
	② 対話的な学びが実現できるように配慮されているか。	① 対話的な場面であることが明確になるように工夫しています。 ② 自分の考えを伝えたり、他者の考え方を認めたりすることができるように配慮しています。	● 他者との対話が想定される場面では、2人または4人で話し合っているイラストを示し、場面をイメージしやすいように配慮しています。【3年上p.108、4年上p.32など】 ● 多様な考え方やかき方、求め方を示し、他者の考え方を理解し、認めることができるように配慮しています。【4年上p.64-65、5年上p.30など】
	③ 深い学びが実現できるように配慮されているか。	① 学習してきた内容を活用することができるように工夫しています。 ② 学習した内容を整理して、深めることができるように工夫しています。	● これまでに学習した内容を「ふりかえろう つなげよう」として領域ごとにまとめて統合的に捉えるとともに、そこから生まれる新たな疑問を次への学習のきっかけとして位置づけています。【4年上p.86-87、6年p.124-125など】 ● 児童の意欲に応じて学習した内容を活用したり、深めたりすることができるように、巻末では「ふかめよう」を設けています。【2年上p.160-161、5年上p.167など】
2 継続的な指導	① スパイラル(反復)などの継続的な指導や学年間の円滑な接続ができるように配慮されているか。	① 継続的な既習事項の反復などを通して、学年間や学年を超えた円滑な接続ができるようにし、基礎・基本の習熟や維持が図れるよう配慮しています。	● 本文中では、適宜、既習事項を想起し、類推的に考えることができないかを吹き出し等で投げかけることで、継続的な学習を意識できるようにしています。【5年下p.98】 ● 目次では、関連のある既習単元のつながりを提示したり、次につながる単元を提示したりすることで、当該学年だけでなく、学年間や学年を超えた系統的な配列も見えるように工夫しています。【全学年の目次】 ● 2年以上の巻頭で「○年生で見つけた見方・考え方」を設け、前学年の学習を見方・考え方をともにふりかえり、次の学習へつなげることができるようにしています。【4年上p.10-11、5年上p.10-11など】 ● 「時刻と時間」や「長さ」、「単位量あたりの大きさ」、「割合」など、児童にとって理解の困難な学習については、単元を分けて細かなステップで取り組めるように配慮しています。【1年上p.86-87、2年上p.64-78など】
	→ 詳細は7ページ		
3 領域間の指導	① 他領域の内容を関連付けて活用するなどの配慮がされているか。	① 他領域の内容との関わりを積極的に示唆して、複合的に活用していく場を取り上げています。 ② 他領域の課題であっても同じ考え方を活用していることを示唆することで、領域を超えた理解が深まるよう配慮しています。	● 比例の単元で面積の問題を扱うなど、領域を個々として切り離すのではなく、積極的に複合して活用していくように示唆しています。【5年上p.41など】 ● 各学年下巻巻末の「○年生で見つけた見方・考え方」や、6年別冊の「算数で見つけた見方・考え方」では、これまでの学習や6年間の学習を見方・考え方をベースにまとめることによって、異なる領域の内容でも同じ見方・考え方をしていることに気づき、領域を超えて理解が深められるように配慮しています。【4年下p.179-180、6年別冊p.2-25など】

	観点	特色	具体的な事例
4 幼稚園・保育所や中学校との連携	① 幼稚園・保育所との連携について配慮されているか。	① 低学年では、問題場面や活動内容を親しみやすい素材を使って設定しています。	● 1年の目次では、これまでにしてきた遊びが算数と関わりあることを示唆するとともに、1年の入門期では、幼稚園や保育所で慣れ親しんだ絵本のような場面やしかけを行い、課題に抵抗感なく関われるように配慮しています。【1年上p.2-17など】
	② 小学校算数から中学校数学へのスムーズな移行に配慮しているか。	① 小学校算数で身につけた見方・考え方を、中学校数学になってからも活用できるように備えています。 ② 高学年では中学校数学との教材の関連を意識して、小学校算数の学習内容とともに作図方法についても振り返りを意識しています。 ③ 小学校から中学校の学習内容へのギャップをなくすよう、自然に数学の世界へ興味がもてるように工夫しています。	● 6年には、6年間の算数の総復習として、「算数のまとめ」を設けています。また、6年別冊の「中学校へのかけ橋」の「算数で見つけた見方・考え方」では、小学校算数の6年間で学んだことを「見方・考え方」をもとに総まとめをし、中学校でも活用できるよう備えています。【6年別冊p.2-25】 ● 6年別冊の「中学校へのかけ橋」では、図形の垂直と平行についての図形的な性質だけでなく、定規やコンパスの使い方についても復習して中学校に備えています。【6年別冊p.35-37】 ● 中学校で広がる数の世界にとまどわないように、6年別冊「中学校へのかけ橋」では、ガイダンス的に正負の数や文字式などを紹介しています。【6年別冊p.26-48】 ● 教科書の構成について中学校とのギャップを少なくするため、6年の教科書を1冊にして、1学年1冊という形態に慣れることができるようにしています。【6年】
5 すべての児童への配慮	① ジェンダーや人権などへの配慮がなされているか。	① 素材や登場人物、その表現において、社会的な性差別や人権差別を助長することのないよう配慮しています。	● 登場するキャラクターを男子2人、女子2人にし、紙面に登場する比率や役割、話し方などについて偏りがないようにしています。【全単元】 ● 男子は寒色系の色の服、女子は暖色系の色の服やスカートなどの固定的なイメージで区別することのないように配慮しています。【全単元】
	② ユニバーサルデザインへの配慮がなされているか。	① 色覚特性に配慮し、色の違いによって区別し解答させる場面を避けて、記号や模様の違いなどで判断できるようにしています。 ② 文字の視認性や紙面における明確さなど、すべての児童が見やすいように配慮しています。	● 色覚に関する専門家の校閲を得て、写真、イラスト、図版、本文の記述など全てにおいてカラーバリエーションとなるよう配慮しています。【全単元】 ● 主要な本文書体にはUDフォントを使用して、全ての児童にとって、より見やすく読みやすい教科書となるよう配慮しています。【全単元】 ● 主要な問題を枠で囲んだり、重要な内容は他と形などを区別したりすることで、読み取りやすく、算数の学習の妨げにならないように配慮しています。【全単元】
	③ 特別支援教育に対して配慮されているか。	① 支援が必要な児童だけではなく、全ての児童にとってつまづきをなくすための手立てを、全学年を通して取り組んでいます。	● 全ページにおいて文節改行を取り入れ、読み取る段階でのつまづきを解消するよう努めました。また、できるだけ1つの番号につき、課題が1つになるようにし、混乱を避けるよう配慮しています。【全単元】 ● 4年では、点字の仕組みを算数に関連させながら解説し、紹介しています。【4年下p.127】
6 道徳などとの関連	① 自分自身について振り返り、見直そうとする態度を育成する展開になっているか。	① 教材の中に生活の場面を取り入れ、自らの生活について考えられるようにしています。	● 1日の生活の流れを調べる活動を通して、自分自身の生活について振り返り、見直そうとする態度が育成できるようにしています。【1年下p.60、2年上p.20など】 ● 健康について考えることで、自分自身を見直すきっかけになるように、規則正しい生活や食べ物、体のつくりについての素材を取り上げています。【2年上p.120-121、6年p.210-211など】 ● 話し合いの中で、自他の意見を尊重し合い、多様な考えを認めることができる態度を育成できるように配慮しています。【6年p.93など】
	→ 詳細は33ページ		
7 ICT活用	① ICTを活用して学習効果を上げるように配慮されているか。	① ICT機器を使用することの利便性や、効果的かつ正しい使用方法について理解できるように配慮しています。 ② 発達段階に応じたプログラミング学習が行えるように配慮しています。	● 学びの補助として、ICT機器を活用して考察することのできる二次元コードを準備しています。【全学年】 ● デジタル・シティズンシップについて知ること、インターネットの正しい利用方法や姿勢が身につくようにしています。【6年p.104-105】 ● タブレットを使用して撮影した写真を拡大や縮小する活動を通して、コンピュータを使用する利便性を伝えとともに、その使用方法についても注意を喚起しています。【6年p.170】 ● 各学年にプログラミングに関するページを設けて、物事を筋道立てて捉える論理的思考を育むために、プログラミング的思考が身につくようにしています。【1年下p.80-81、3年下p.144-145、5年下p.150-151など】
	→ 詳細は30～31ページ		

III 教科書の構成上の配慮と工夫

	観点	特色	具体的な事例
1 内容の程度	① 本文の程度は、各学年の児童の能力に適したのものになっているか。	① 内容は、易から難へと段階を細かくして展開し、児童の発達段階に応じたものになっています。 ② 既習事項を活用して解決できるように配列し、各学年の児童の能力に応じた扱いができるようにしています。	● 計算では、桁数の少ないものから多いものに、繰り上がりや繰り下がりのないものからあるものへと、児童の発達段階を考慮し、段階を細かく分け、図や操作活動を通して、易から難へと配列しています。【加減乗除の全単元】 ● 量と測定では、具体操作を中心に量概念、量感覚を育成するとともに、測定の概念については、直接比較・間接比較・任意単位・普遍単位の流れをベースにして展開しています。また、公式についても自ら作り出すことができる展開にしています。【量と測定領域】 ● 図形では、かく・折る・切る・測るなどの数学的活動を通して図形の調べ方を育成できるようにしています。また、身のまわりのものから抽象化したり、作品作りなどで、図形の感覚を育成したりするなど、図形を用いるよさに着目できるようにしています。【図形領域】 ● 各学年の統計領域では、基礎・基本を身につける単元と活用する単元の2つの単元に分けています。活動を分類整理することによって統計学習の充実を図ることができるように配慮しています。【統計領域】
	② 練習問題などの程度は適切になっているか。	① 基礎的・基本的な内容については1時間の学習内容に対応した練習問題を時間の終わりの部分に載せ、十分な習熟が図れるようにしています。さらに練習を深めたい場合のために、巻末にも練習問題を掲載し、適切な量で扱えるよう工夫しています。 ② 単元末の「できるようにになったこと」では、その単元の基礎的・基本的な考え方の習得を確認する問題を配置しています。	● 各時間の最後に適用問題を載せ、1時間の学習内容の習熟を図れるようにしています。【2年上p.130、5年上p.117-118など】 ● より習熟を深めることができるように、巻末に「ほじゅう問題」を設けています。【3年下p.150-156、6年p.232-243など】 ● 単元末の「できるようにになったこと」では、二次元コードのリンク先に練習問題を用意し、より習熟できるようにしています。【2年上p.49、4年上p.22など】
	③ 補充的・発展的な学習についてはどのように配慮されているか。	① 基礎・基本の学習をさらに習熟するとともに、それらを使って総合的・発展的に考えられるよう工夫しています。 ② どちらも柔軟に扱えるよう、構成について工夫しています。	● 全学年の巻末「ほじゅう問題」は、柔軟に扱えるよう巻末にまとめて掲載し、自学自習にも活用できるよう、2年以上では解答も用意しています。【2年下p.120-126、3年上p.129-139など】 ● 巻末の「もっと算数」内の「ふかめよう」では、複数単元の内容、生活の中の算数などを題材に総合的・発展的に考える教材も取り入れています。【3年上p.142-143、4年下p.172-173など】
2 組織・配列	① 内容は、基礎的・基本的事項を理解するうえで、系統的・発展的に配列されているか。	① 各学年の指導内容を詳細に分析し、基礎・基本の内容を明確にして、系統的・発展的に配列しています。	● 1年の数の学習では、入学前の児童の数の理解程度を研究し、10まで、30まで、120までと分け、数拡張の中で十進位取り記数法の定着に十分な時間がかけられるようにしています。【1年の数領域】 ● 計算については、基礎・基本を明確にし、既習事項を使って計算方法を自分で考えられるものについては、「くふうして計算のしかたを考えよう」単元として設定しています。【2年上p.30-37、3年下p.2-5など】 ● 5年の面積や6年の体積では、既習の量の測定の概念を用いて考えられるように配慮しています。【5年と6年の図形領域】 ● 倍については、児童のつまずきが多い内容であるため、本単元とは切り離して特設単元として、3年から6年までの「倍の計算」単元で学習することができるようにしています。【3年上p.54-55、5年上p.128-129、6年p.126-127など】 ● 理解が困難な内容については単元を2つに分け、さらに指導時期も学期を分けるなどすることによって、基礎・基本が定着できるように配慮しています。【3年「わり算」、5年「割合」など】
	② 教科書の構成は、児童が意欲的・主体的に学習できるように配慮されているか。	① 学習材として教科書を位置づけ、導入では答えの見えない構成に配慮するとともに、ていねいな記述で児童が学習後に読んでわかることをねらい、意欲的・主体的に学習できるように配慮しています。また、自主学習ができるよう配慮しています。	● 重要事項は、教師が指導すること(定義や用語など)を「博士マーク」、児童が活動を通して発見し、獲得すること(考え方やきまりなど)を「まとめ」に分けて、目立つようにしています。【全単元】 ● 単元名の下に児童にもわかりやすい言葉で「単元のねらい」を示し、児童自らねらいをもって学習に取り組むことができるようにしています。【全単元】 ● その時間の「めあて」を児童の対話から生まれるようにして明確にするとともに、意欲的に学習に臨めるようにしています。【全単元】 ● 既習事項が明白な単元の導入や、小単元の導入では解説・解答が見えない構成にするとともに、考える力を育成するようにしています。【3年上p.37、5年下p.47など】
	③ 導入・本文・練習などの配列は、単元を学習する上でふさわしいものになっているか。	① 課題把握の場としての「導入」、理解を深めさせる場としての「本文」、定着の場としての「練習」、学習したことの整理としての「できるようにになったこと」というように、一貫して学習できる配列に配慮しています。	● 導入では、ストーリーのあるイラストを用いて生活の場面から素材を提示するようにし、作業的・体験的な数学的活動も取り入れながら、課題把握が十分できるようにしています。【2年上p.100、4年下p.78など】 ● 各時間の導入課題は枠囲みで示し、いろいろな考え方の例示や解説をもとに授業が進められるようにしています。また、基本的にページ単位で学習内容を構成し、学習が途中で途切れることがないよう工夫しています。【全単元】

	観点	特色	具体的な事例
2 組織・配列	④ カリキュラム・マネジメントの実現についての配慮がされているか。	➡ 詳細は18～19ページ	① 3学期制、2学期制のどちらにも対応できるような単元配列にするとともに、適宜予備時間を設けることで、 柔軟な授業が展開 できるように配慮しています。【 全単元 】 ② 本文では、他教科の進度に合わせた単元配列を重視するとともに、学期末の「 算数をつかって 」では、総合的な学習としても扱える話題を取り上げ、 現代的な課題に取り組むことができる ように配慮しています。【 全単元 】
	➡ 詳細は18～19ページ	➡ 詳細は18～19ページ	➡ 詳細は18～19ページ
3 分量・時間	① 各学習内容の分量は適切に配分されているか。	① 発達段階に応じて児童が効果的に学べるように、単元のまとまりを設定しています。また、児童の意識面にも配慮して単元構成をしています。	① 児童の実態を分析し、低学年では単元を短くし、高学年では内容的なまとまりに対応して単元構成をするようにしています。また、単元の中でも教材のまとまりに配慮し、2～6の小単元で構成しています。【 各学年 】
	② 総時間数や児童の発達段階に照らし合わせ、教科書の全体の分量や1時間ごとの分量は適切な量となっているか。	① 基礎・基本の内容を確実におさえたいうえで課題を精選し、余裕のある時間配分ができるよう配慮しています。 ② 1時間ごとの分量は児童の発達段階に合わせた適切な分量になるように工夫しています。	① 全体の課題を精選することで、学習指導要領に示された標準時間数に対して、10～20％ほど少ない時間数で本文内容を扱うことができるようにしています。【 全学年 】 ② 全単元で1時間の始めの課題を枠で囲み、 1時間で学習する課題の見通し がもてるようにしています。1時間ごとの学習の分量は児童の発達段階に合わせて、1ページ(場合によっては2～3ページ)になるように配慮しています。【 全単元 】
	③ 練習などの分量は適切になっているか。	① 各時間の定着を図るための問題、単元末の「できるようにになったこと」、巻末の「ほじゅう問題」では、既習内容の定着、基礎・基本の習熟を図るのに必要な分量にするようにしています。	① 1時間ごとの定着のために時間の最後に適用問題を入れ、習熟できるようにしています。なお、計算では、代表的な型の問題には問題番号に色アミを付けて、学習のねらいと問題の関連が明確になるようにしています。【 2年上p.58など 】 ② 「 できるようにになったこと 」はその単元の習熟問題、「 まなびをいかそう 」はその単元の活用問題とし、習熟に応じて扱うことができるようにしています。【 各単元末 】 ③ 巻末に「 ほじゅう問題 」を掲載することで、個々の進度や時間数によって柔軟に使用できるようにしています。【 全学年 】
4 教材・素材	① 素材は、実生活との関連を考慮し、児童の興味や関心をもて、生活経験を基にしたものになっているか。	① 可能な限り身のまわりにあるものを題材として取り上げ、興味や関心のもてる導入にするとともに、生活場面で活用している例を取り上げています。	① 巻末の「 ふかめよう 」や本文中のコラム(囲み)などでは、 学んだことを生活や遊びの場面に活用 することで算数のよさが実感でき、意欲的に学習できるよう配慮しています。【 6年p.23-24 】
	② 素材や場面は、地域性に対する配慮や地域的な偏りがないよう配慮されているか。	① 各地域の特徴や建造物、産物などを提示することにより、児童が興味や必要感をもって取り組めるようにしています。	① 地域性のある題材を使用するとともに、自分の住んでいる地域についても算数の興味をもてるよう配慮しています。【 3年上p.114、4年上p.151、5年上p.81など 】
	③ 社会の進展や変化に対応できる能力や態度が身につくよう配慮されているか。	① 演算決定を行うための手段・判断方法を獲得し、変化する課題にも対応できる能力・態度が育まれるように工夫しています。 ② 多様な情報から必要な情報を読み取り抜き出す能力、課題解決のために情報を補足する能力が育まれるよう工夫しています。	① 計算単元では、演算決定をするための有効な手立てである 図の指導を、発達段階に応じて低学年から系統的に扱っています 。4年生以降では、4マス関係表を使って効果的に演算決定ができることも促しています。【 2年上p.82-83、3年下p.8、5年上p.99など 】 ② 数量感覚を育てるために、実際の経験・見積り・予想する行為を重視し、学習展開の中で随時取り扱うようにしています。【 4年上p.95など 】 ③ 解決のために情報を正しく取捨選択できる能力が育つよう、長文から必要な情報を抜き出す課題を取り扱っています。【 2年上p.120-121、5年上p.130-131など 】
	④ 他教科及び総合的な学習との関連に配慮した展開となっているか。	➡ 詳細は29ページ	➡ 詳細は29ページ
5 様々な教育課題への取り組み	① 防災・防犯・安全指導について配慮されているか。	➡ 詳細は34ページ	➡ 詳細は34ページ
	② 国際理解に関心をもてるよう配慮されているか。	➡ 詳細は35ページ	➡ 詳細は35ページ
	③ 環境について興味をもてるよう配慮されているか。	➡ 詳細は34ページ	➡ 詳細は34ページ

	観点	特色	具体的な事例
	① 個々の習熟度に対応できるよう配慮されているか。	① 学級内の個人差に対応した様々な教材を用意し、柔軟に取り扱えるよう工夫しています。	● 全学年の巻末に基礎・基本を習熟するための「ほじゅう問題」、応用的・発展的な課題を解決する「ふかめよう」を掲載することで、個々の習熟に柔軟に対応できるようにしています。【2年上p.151-161, 5年下p.156-165など】
	② 個性を育成できる活動が取り入れられているか。	① 解決の多様な方法を提示し、一人ひとりの考えを大切にしたい学習ができるように配慮するとともに、問題作りや、作品作りなどの活動を通して、個性を育成できる扱いを入れています。	● 「〇〇さんの考え」を示すことで、友だちの考えを尊重して大切にしたり、別の方法を考え出すきっかけになるようにしたりしています。【1年下p.14, 2年下p.54, 5年上p.82など】 ● 解決の方法や結果が多様なものになるような問題を入れ、児童一人ひとりが達成感と充実感を味わえるようにしています。【2年下p.50, 4年上p.112など】 ● 本作りや問題作り、作品作りなどで個性に応じた主体的な数学的活動ができるようにするとともに、意欲を育むことにも配慮しています。【1年上p.11, 52, 3年上p.47など】
6 個別最適な学び	→ 詳細は6ページ		 
	③ 学校での学習とともに家庭学習の習慣が身につくように配慮されているか。	① 学校や家庭での学習を想定し、教科書の使い方を示しています。 ② 学習した内容を振り返る場を多く設けることで、学習習慣が身につくように配慮しています。	● 2年以上の巻頭に「みんなと学ぼう！算数の学び方」を設け、児童が教科書を使った自学自習に対応し、予習や復習などに使えるようにしています。【2年上p.2-5, 4年上p.2-5など】 ● 「できるようになったこと」では、問題の観点とチェックマークを設け、自分の身につけた力を確認しながら練習できるよう促しています。【2年上p.49, 4年下p.30, 95など】 ● 「先生と保護者の方へ」を掲載し、先生、保護者の方も教科書の構成や記号の意味について理解できるようにし、教科書の趣旨に沿って児童を支援できるようにしています。【2年上p.2-5, 6年p.2-5など】
	④ 自己評価に対応した取り扱いができるように配慮されているか。	① 「できるようになったこと」では、考え方、表現・処理、知識・理解の評価に対応した問題を配列するとともに、その単元の基礎・基本の評価だけでなく読解力や表現力も評価ができるようになっています。 ② 児童の活動をもとに自己評価する方法を用いて、より深い評価ができるようになっています。	● 各単元の「できるようになったこと」では、観点別の評価にも活用できるように配慮しています。さらに、各問題にチェック欄を設けることで、自己評価ができるようにしています。【各単元末】 ● 2年以上の巻末の「ほじゅう問題」では解答と関連ページを載せ、自己評価・自己学習ができるとともに、主体的な学習態度が育成できるように配慮しています。【3年上p.128, 4年下p.159, 6年p.231など】 ● 各学期末にパフォーマンス課題及びパフォーマンス評価の手法を取り入れ、個に応じた評価ができる場面を設けるとともに、自己評価もできるようにしています。【2年下p.116-118, 4年下p.156-158など】
7 キャリア教育	① キャリア教育について配慮されているか。	① 児童が他者や社会との関わりを意識し、協働的に行動できるように配慮しています。 ② 自己を理解し、主体的に学習に取り組むことができるように配慮しています。 ③ 課題解決のために、どのように考えていけばよいかという解決のプロセスも学べるように配慮しています。 ④ 自らの立場や役割を理解し、社会に出て役立つ能力が身につくように配慮しています。	● 他者の考えを多様な考え方として明示し、話し合いをもとにして学習に取り組んでいけるように配慮しています。【4年上p.64-65など】 ● 単元の活動では、「？を発見」や「めあて」、「つながりの？」など、児童の思考に寄り添った展開とすることで、知りたいことや考えてみたいことなどに主体的に取り組んでいけるように構成しています。【全単元】 ● 特に「Dデータの活用」領域では、自分たちが調べたいことを発見し、PPDACサイクルを活用しながら問題を解決していくことができるような展開としています。【5年下p.140-142など】 ● 身のまわりの生活場面において、自分たちならばどんなことができるか、どのようなことが考えられるかを話し合う場面を通して、社会に役立つ素地を養うことができるようにしています。【6年p.228-229など】
	→ 詳細は35ページ		

〔 教師用指導書，デジタル教科書・教材 〕

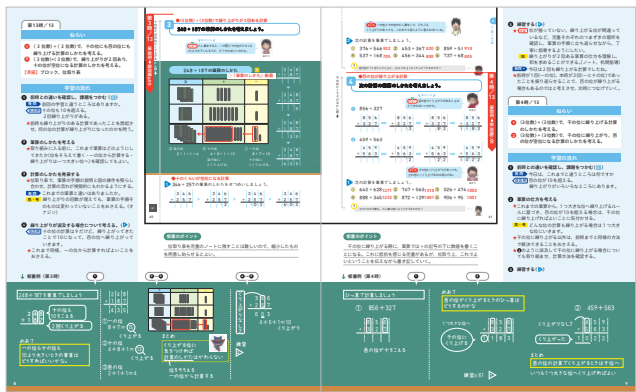


これまで以上に，先生方の日々の授業・研究をサポートできるようにしました。

教師用指導書

【朱書編】

教科書の縮刷には，問題のねらいや解答を掲載しています。
また，単元のはじめに指導の概観，縮刷の周囲には，1時間ごとのねらいや学習の流れなどを掲載しています。
さらに，毎時の板書例を示し，授業のイメージがつかみやすいようにしています。



【解説編】

各単元ごとに，目標，指導の概観，関連事項，指導・評価計画案，指導の要点，参考，展開例で構成しています。
特に，展開例はすべての時間のものを掲載しています。

【テスト・ワークシート編】

コピーして使用できるワークシートとなっています。
単元学習前に活用できる「じゅんびテスト」（準備問題），単元学習後に活用できる「力をつける問題」，「テスト」（評価問題）を用意しています。

【データ編】

テスト・ワークシート編の各データのほかに，図版集，総ルビの教科書紙面PDFデータなどを収録しています。

また，著者による授業解説動画を用意しています。

令和6年度版デジタル教科書

従来のリフロー画面，総ルビ機能，色反転などの機能はそのままに，今回新しくノート機能を学習者用，指導者用ともに搭載しました。これにより，児童が作成した画面や問題の解き方などを保存できるようになり，さらに位取り表や方眼紙などを使って充実した画面作成も可能になりました。

指導者用には，児童用の機能に加え，統計用ツールを搭載し，作成したデータを表やグラフにするなど，「データ活用」の領域で効果的に利用できるようにしています。



学習者用・指導者用双方とも弊社WEB
サイト上の体験版にてお試しください，
ぜひ上記各機能を体感してください。

CHECK!



toio™

1，3年の「プログラミングのブ」では，株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメント，株式会社内田洋行と連携し，実際に「toio™」を使って授業を行うこともできます。

詳細についてはこちらからご確認ください。

“toio™”は株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメントの登録商標または商標です。

CHECK!



※紙面見本，内容については制作中のものであり，変更になる場合もございます。

〔 表紙について 〕

見立てを通して，
生活と算数を
つなげることで，
算数が好きになる



田中達也

Tanaka Tatsuya

profile

ミニチュア写真家・見立て作家。日常にある物を別の物に見立てたアート「MINIATURE CALENDAR」を，2011年からインターネット上で毎日発表し続けている。展覧会を国内外で開催。主な著書に「MINIATURE LIFE」，「MINIATURE TRIP IN JAPAN」，「MINIATURE LIFE at HOME」，絵本「くみたて」「おすしがふくをかいにきた」など。
Instagramのフォロワーは360万人を超える(2022年12月現在)

MINIATURE CALENDAR

<https://miniature-calendar.com/>



1 年上（算数 116）
〔モチーフ〕 ボタンの桜
〔キーワード〕 数，たし算，ひき算

1 年下（算数 117）
〔モチーフ〕 野菜の気球
〔キーワード〕 たし算，ひき算，くらべてみよう



2 年上（算数 216）
〔モチーフ〕 デザートの動物園
〔キーワード〕 大きい数のたし算，ひき算

2 年下（算数 217）
〔モチーフ〕 チョコレートの街
〔キーワード〕 かけ算，長さ，はこの形



3 年上（算数 316）
〔モチーフ〕 リングノートのプール
〔キーワード〕 時こくと時間，長さ

3 年下（算数 317）
〔モチーフ〕 サンドイッチとおにぎりの山
〔キーワード〕 三角形と角，大きい数



4 年上（算数 416）
〔モチーフ〕 フルーツの島
〔キーワード〕 角

4 年下（算数 417）
〔モチーフ〕 鉛筆の畑
〔キーワード〕 面積



5 年上（算数 516）
〔モチーフ〕 のり巻きずしのSL
〔キーワード〕 混み具合，速さ

5 年下（算数 517）
〔モチーフ〕 飲み物容器の工場
〔キーワード〕 体積，立体



6 年（算数 616）
〔モチーフ〕 ケーキの学校
〔キーワード〕 円の面積，立体の体積，比例

6 年別冊（算数 617）
〔モチーフ〕 文房具の街
〔キーワード〕 中学校へのかけ橋